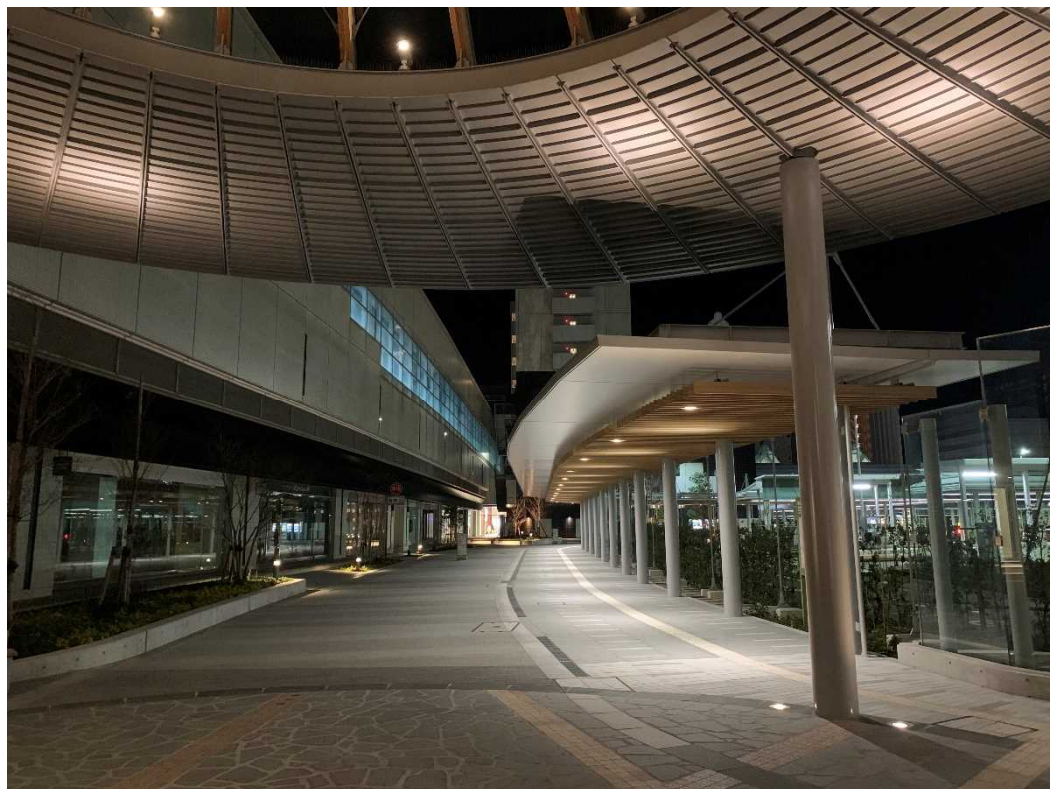


第7回 金沢の景観を考える市民会議

令和3年2月20日（土）

金沢歌劇座2階 大集会室



金 沢 市

目 次

13:30～13:35

あいさつ 1

金沢市長

山 野 之 義

13:35～14:15

基調講演「『令和』の時代へ継承し、そして創出し続ける、金沢の景観」 . . . 2

講 師

水 野 一 郎（谷口吉郎・吉生記念金沢建築館館長/金沢工業大学教授）

14:25～15:10

金沢市景観サポーター活動報告 10

報 告 者

櫻 井 美 環

上 田 律 子

山 崎 裕 司

上 坂 達 朗

福 岡 澄 子

高 木 信 吉

15:20～16:00

パネルディスカッション「金沢の景観の魅力を未来へ繋ぐために」 27

コーディネーター

木 谷 弘 司（金沢市まちづくり相談員）

コメンテーター

水 野 一 郎（谷口吉郎・吉生記念金沢建築館館長/金沢工業大学教授）

パネリスト

上 坂 達 朗（金沢市景観サポーター）

中 西 真美子（金沢片町まちづくり会議）

丸 谷 耕 太（金沢大学准教授）

横 江 憲 哉（武家屋敷跡 野村家 代表）

（司会：石川 毅）

アンケート調査結果 35

第7回 金沢の景観を考える市民会議 ～みんなで描く景観のミライ～

日時：令和3年2月20日（土）13:30～16:00

会場：金沢歌劇座2階 大集会室

あいさつ

金沢市長 山野 之義

皆さん、こんにちは。司会の方をはじめ、いろいろお世話を頂いております景観サポーターの皆さんに、私の立場からも改めて御礼を申し上げたいと思いますし、そういう市民の皆さんの問題意識の積み重ねが、金沢のまちなみ、金沢のまちをつくっているのだと、改めて気を強くしているところであります。

新聞等でご存じの方が多くいますけれども、この後、基調講演をされます水野一郎先生をはじめ何人かの方にご助言を頂きながら、金沢市はこれから「木の文化都市」を目指していこうという方向性を明確にして、さまざまな施策を行っていきたいと思っています。決して建築物だけではなくて、皆さんご存じのとおり、金沢の市域の約6割が森林でありますので、森林環境譲与税という新しい税金も活用して森をきちんと守っていくということも「木の文化都市」の責務であると思っていますし、いろいろなものをした後、端材が残ります。その端材の有効活用を考えていくことも、やはり森林が6割を占める金沢市の責務であると思っています。

木を大切にし、生活の中でも木と接点があるようなまちをつくっていききたい。そんな意味から「木の文化都市」をつくっていききたいと思っています。まずは尾張町の地区をモデル地区とさせていただきまして、地域の皆さんといろいろな意見交換をさせていただきながら、建物の修繕・改善をするときにいろいろな形で木を使っていただいて、まちなみにふさわしい、そして金沢らしさというものが伝わってくるように、ぜひご配慮いただきたい。そういう場合は市の方でこういう応援メニューを用意しますよという形でやらせていただければと思っています。

大変息の長い作業になると思っています。1年や2年で劇的に何かが変わるというものではないと思います。10年、20年、30年、もしかしたらもっとかかっていく中で金沢らしい景観、まちなみというものができてくるのではないかとも思っていますし、また皆様方からそれぞれ日々いろいろなご助言を頂くことによって、金沢のまちをつくっていけるのではないかと思っています。

本日は、2年に一度の場であります。市の職員も参加させていただき、いろいろな意見を聞かせていただきながら、皆様とともにいいまちをつくっていければと思っています。本日は本当にありがとうございました。



基調講演『令和』の時代へ継承し、そして創出し続ける、金沢の景観

水野 一郎 氏（谷口吉郎・吉生記念金沢建築館館長／金沢工業大学教授）

（司会） 講演に先立ちまして、講師の水野様についてご紹介させていただきます。

水野様は東京大学工学部建築学科、東京芸術大学大学院美術研究科修士課程建築学を修了され、昭和 52 年金沢工業大学助教授に就任されました。以降、昭和 54 年に教授、平成 24 年からは副学長を歴任され、令和元年より谷口吉郎・吉生記念金沢建築館の初代館長に就任されております。石川県を中心として、さまざまなまちや地域において、建築や地域づくりの計画・設計に精力的に取り組まれるとともに、金沢市の景観、都市計画、文化財などの審議員としてまちづくりに関わってこられました。

本日は、多岐にわたる活動のご経験から『令和』の時代へ継承し、そして創出し続ける、金沢の景観』をテーマにお話を頂きます。それでは水野様、よろしくお願いいたします。

こんにちは。今日はプログラムが多いので、早速始めたいと思います。

（以下、スライド併用 #印）

#

景観というのは、一つ一つの営みの集積です。住宅もあれば、商店もあれば、オフィスビルもあれば、役所もあれば、ミュージアム、病院もある。そういった建築が連なり、まちなみ、都市全体となって景観が形成されます。

そして、その建築が建つ環境として、地形があり、気象があります。例えば、金沢と静岡では、金沢は数日前のように雪が降りましたが、そうしますと、当然、建築も変わってきます。道路の構造も変わってきます。広場のづくり方も変わってきます。そういう気象の問題があります。それから、金沢には用水がたくさんあります。この用水を守ることで、他の都市とは随分違う風景が見られます。他にも、金沢のど真ん中にはお城があったり、兼六園があったりして、そこには水が流れています。そんな水と緑の都心をどう使うかということは、金沢の景観にとって非常に重要です。

それから、いつの時代もそうですけれども、外力が入ってきます。戦災を受けたか受けないか。この間の地震ではありませんが、震災を受けたかどうか。大火があったかどうか。今日お話ししたいと思っている二つの大きな外力のうちの一つは、明治維新で日本は近代化という形で都市や国家をどんどん造り替えました。そのときに各都市がどういう生き方を選択したかということです。これは非常に大事です。もう一つは、近代都市計画と書いてありますけれども、戦災を受けた後、焼け野原になった日本中の都市がどう復興して、新しい都市を築いていったか。そのときの選択の仕方。これも非常に大事です。この二つのお話をしたいと思います。これが金沢の景観にとって非常に大事なポイントになっています。

都市がどの選択をしたかが景観をつくります。その意味で、景観はその都市の価値観や美意識のバロメーターであり、個性や自律性の表現であると言えます。ここには、景観に関心を持って行動されている皆様方がお集まりになっておられます。そういう力、金沢の持っている力のようなものが、ここに表れてくるということです。



#

金沢の景観の特性を少し分かりやすく整理しておきますと、一つは歴史的重層性です。戦国時代のもの、江戸、明治、大正、昭和、平成、今や令和も入って、各時代層が金沢の町割り、建築、営み（産業）、工芸、芸能等に蓄積しています。すなわち、各時代の価値観、美意識が味わえるということです。都市が生まれてからぐるぐると歩んできた、バウムクーヘンのようなもので、ここは江戸時代の層、明治の層、大正の層、昭和の層というように、いろいろな層があります。分かりやすくするために「バウムクーヘン都市」という言い方をしています。

こういう都市の場合は、継続のために過去層の保存継承をしなければいけません。いい部分、「ああ、これは残したいな」と思うものは残していく。そしてまた新しい時代の層、我々の時代の層、平成もやってきました。今は令和が始まっています。そういう層を重ねていかないと、この物語は完結しないわけです。そういう意味で、過去のいい層の保存と自分の層の創造付加が、我々の役割であるわけです。

なぜ過去の遺産を残そうとするかということ、過去の遺産は未来を創造する素材としてあると考えるからです。いろいろな価値観、多様性の中から、我々はどうしようかということを考えていく。そのために過去があるということです。

#

もう一つは、そういう時間的な都市の積み重ねがあるのですが、それを都市の空間として見た場合には、江戸の建物のすぐそばに昭和の建物がある。昭和の建物のすぐそばに平成の建物もある。その平成の建物のすぐそばに明治の建物がある。そんなことが金沢ではあちこちで起こっています。すなわち、モザイクのようです。例えば、世界遺産都市であるフィレンツェやベネチアに行きますと、ある時代の建築で全部を占めています。一つのまち全部が、統一が取れているから世界遺産になる。マチュピチュもそうです。そういう都市の仲間入りをしようと思って、金沢も世界遺産都市に立候補したのですが、受け入れてもらえませんでした。いろいろな時代のものが混在してしまっているからです。きれいに統一されていない、モザイク状ですので、それはちょっと難しいということで、世界遺産には選ばれませんでした。そういう混在している、ごちゃ混ぜの都市です。しかし、そのごちゃ混ぜで混在していることが、大事な特徴なのです。このように、時間的にいろいろなものがあること、空間的にいろいろなものが混在していることの二つが、金沢の景観の特徴です。

#

先ほど、二つの近代化への対応が非常に大事だとお話ししましたが、その一つ、明治維新時の近代化への対応です。250年の鎖国の間に西洋社会は科学・技術の飛躍的發展を遂げていました。明治維新のときに、それに追いつこうとしたのが維新政府の産業政策であり、エネルギー政策であり、交通政策であり、通信政策、教育政策、軍備等、多岐にわたる西洋的近代化を推進しようとしします。地方はその変革を受け入れるわけですが、国の施策を積極的に導入しようとするか、あるいは自分たちで内発的にゆっくりと時流を追うかに分かれました。金沢は後者の道を選択し、緩変的に近代化を進めたので、城下町の構造や社会を残すこととなりました。

日本中の多くの都市は、明治維新のときに維新政府の近代化の施策を受け入れるのです。例えば隣の富山県でいいますと、当時、電気が必要になって、国が電源開発をやるところはないかと探すと、富山はぱっと立候補しました。外力を導入して、ダムをたくさん造り、水力発電所を設置するわけです。それから、港湾建設をやるところはないかと言うと、ぱっと立候補して富山新港などを造りました。それから、元々高岡には銅器産業がありましたけれども、それを近代化産

業にするために、機械産業を導入するところはないかと言うと、やはり富山はぱっと立候補します。

先ほどの電源開発、港湾建設がありましたから、日本の中で珍しくアルミ産業が発達します。YKK もそうですし、三協アルミ、立山アルミ、不二サッシもそうです。みんな高岡中心に、あるいは富山県中心に電源と交通網を基にそういう産業を導入して、自分のところを豊かにしようとするわけです。そういう外力を導入して自分のところを変えていくということを日本の多くの都市がしました。北海道、青森から、九州の大分あるいは福岡辺りに至るまで、ずっとそれをしてきました。そして、それを導入することで急変的に都市を近代化していつています。そのときに、ほとんどの都市は城下町というものを放棄します。

#

私は今、谷口吉郎・吉生記念金沢建築館の館長をしています。建築家の谷口吉郎さんが、日経新聞の「私の履歴書」に連載されたものの一つ、「片町素描」があります。それを読むとそのころの金沢の状況がよく分かります。谷口さんがお生まれになった明治 20 年代後半から 30 年代にかけての状況ですが、ちょっと読みます。

「幼いころの片町は電車が通らず、道はばも狭かったが、それを『カイドウ』と言ったのは、北陸街道を意味したのだろう。両側に大きな構えの老舗が並んでいた。私の家の向かいには、金沢の菓子で有名な『森八』の支店があり、少し行くと『亀田』という菓種屋があった。そこは町年寄の亀田是庵の家で、『奥の細道』の芭蕉がこの亀田家に泊まり、『あかあかと日はつれなくも秋の風』の句をよんだのは、犀川の付近だと伝えられている」。森八は今でも残っています。亀田というお店はもうありませんけれども、看板などが今でも残っていて、多分、後の発表で出てくるかと思います。

「片町の中ほどに『林屋』という大きな茶舗があり、これは吉田内閣の時代に国務大臣となられた林屋亀次郎さんの店であった」。この店もまだありますね。「その林屋さんのご夫妻とは私の父母の代からのご親交を得ている。そのほか油屋、みそ屋、砂糖屋、呉服屋、紙屋、下駄屋、ランプ屋に三味線屋など、城下町にふさわしい、どっしりした構えの店が並んでいた」。すなわち、近代的産業を入れた都市ではなくて、昔のままの、江戸のままのものを引き継ぎながら、明治もこうやって元気であるということを述べているわけです。

#

「そんな和風建築の店のほかに、ハイカラな洋風スタイルの店も目だち、明治時代の文明開化の気分も片町にただよっていた。『勸工場』というのは木造三階の洋館で、百貨店のはしりだった。『はしり』『ハイカラ』という言葉が出てきます。

『宮市』という唐物屋も木造の洋館だった。舶来品を売るこの店には、遠い異国から来た敷き物、カバン、帽子などが並んでいて、その多彩な色彩が、幼い私の目に珍しかった。それは井村徳三郎氏の店で、その井村さんと私の父の谷口吉次郎は明治四十四年にロンドンで開かれた日英博覧会に出かけている」。もうハイカラを通り越していますね。宮市は、後の大和デパートです。

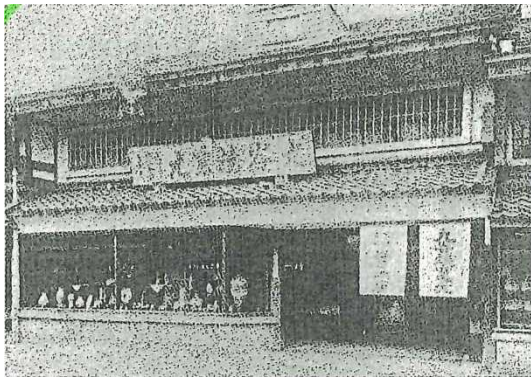
「香林坊の近くに『石川屋』という菓子屋があり、それもハイカラな洋館だった。夏の夜、父や母につれられて、アイスクリームやミルクセーキを食べに行くのが、幼い私には楽しみだった」。石川屋さんは今、片町ではなくて少し郊外の方に移っていますけれども、まだおられますね。

「古寺町には『北間楼』という大きな料理屋さんがあった。父母につれられてよく食事にいったが、奥の廊下に赤や緑、紫の色ガラスをはめこんだガラス戸があり、その鮮やかな舶来ガラスの色彩が、今も私の目の奥にありありと残っている」。谷口さんの感性が本当に鋭かったというこ

とが、こういうことでも分かりますね。それと同時に、金沢はハイカラであったということも分かります。新しい文化を内発的に自分で受け入れて、自分でそれをやっていく。外力導入ではないということです。ここは非常に大事なところですよ。

#

「金沢は古い城下町で、今でも市内に藩政時代の武家屋敷や土塀が残り」、今でも残っていますね。「昔のたたずまいが濃いけど、片町の辺りには、ハイカラな活気がみなぎっていた。しかし、町の住人には伝統に育てられた美的教養が重んじられ、ハイカラな新風の中にも城下町にふさわしい気品が尊ばれていた。私はそんな町内に育った」。この文章は、今の金沢を表現すると言っても全くいいのではないかなと思われるような、素晴らしい文章ですね。すなわち、明治維新の近代化



の時代、日本中が司馬遼太郎さんの『坂の上の雲』ではないですが、坂をうわーっとみんなで上っている。そういう風景のときに、上らないで下からじっと見ていて「俺はどうしようかな。あれも面白そうだな」と自分で動いていく。そういう金沢の家業を支えた旦那衆たちの姿勢が、この文章によく読み取れます。

これは、あまり写真が良くないのですが、谷口さんのお生まれのなった九谷焼のお店です。今の片町の一番館のバス停の辺りにあったものです。

#

もう一つの近代化への対応は、非戦災都市で迎えた戦後です。金沢は焼けなくてよかったと、第2回国体をやります。終戦直後、日本は元気を出そうとスポーツの国体が始まり、第1回が京都でした。それから、現代美術展。戦後すぐに美術展が開かれます。演劇活動もすぐに始まります。徳田秋声文学碑が卯辰山の山腹にできたのも終戦直後です。谷口さんは、「秋声碑を作ってくれと金沢市民が私のところにきた。これは本当にいい話だ」というふうに書いておられます。

一方で、戦災都市では復興事業が始まり、近代都市へどんどん変身していきます。その復興都市計画というのは近代都市計画でありまして、用途地域制といって、商業地区はここ、工業地区はここ、住宅地区はここというふうに機能別に都市を分けて、そこに車社会に合った都市計画道路を通し、戦災で日本中やられましたので燃えない都市をつくろうということで、さまざまな防火帯をつくります。それから、高さ制限などをやります。

そういうものを実施した新しい都市が生まれます。それは世界共通の都市像ですし、世界共通の車社会が実現してきます。そうすると、江戸以来の町家の構造がほとんど残っている金沢が、何となく一周遅れではないかという気持ちになってきます。「何か立ち後れちゃったな。やばいな」という感じです。日本各地が復興と高密度成長による近代化を進める中で、旧態然たる金沢は一周遅れを取り戻すべく、都心の近代化事業や再開発事業を急遽展開します。それが昭和30年代後半から始まった片町近代化事業、香林坊近代化事業、あるいは駅から武蔵の間の再開発事業といったものです。

#

そして生まれたのが、このまちです。左上の写真は香林坊の交差点ですね。奥の方に映っているのが大和デパートです。この裏辺りに香林坊の映画街があります。昭和40年です。下の写真は

片町香林坊の鳥瞰で、香林坊の交差点、広坂通り、日銀があって、大和デパート、犀川です。幹線道路沿いには近代化して不燃化したビルが建ち並んでいます。しかし、一本入ると、ずっと昔のまちがそのままです。

右上の写真は、昭和 41 年に片町・香林坊近代化事業が竣工した記念の日のものです。少し見にくいかもしれませんが、チンドン屋さんが練り歩いていて、横断幕には「片町・香林坊近代化事業竣工記念」と書いてあります。マルゲンさんや森八さんは、今まで古い木造の町家で商売していたのを、鉄筋コンクリートの不燃化した建物に造り替えます。そして、アーケードを架けます。すなわち、不燃化したビル群が建ち並ぶアーケードの中心商店街、これは日本中の都市がつくってきた姿です。それを金沢も追ったわけです。

#

片町・香林坊近代化事業が竣工したのは昭和 41 年ですが、翌 42 年に谷口さんは「金沢診断」と呼ばれる調査を行い、関野克さん、東山魁夷さん、今泉篤男さん、中川善之助さんら東京での友人とともに、石川県知事、金沢市長、商工会議所会頭、金大の学長といった人たちに「金沢の持つすぐれた環境が、都市の近代化の中で調和し保たれていくべき」と提言します。「こういう近代化はいいのかね」という問いを出すわけです。

金沢市はそれを受けて、翌 43 年に金沢市伝統環境保存条例を日本で初めて制定します。「都市開発に伴う本市固有の伝統環境の破壊を極力防止するとともに、近代都市に調和した新たな伝統環境を形成する」。伝統環境の破壊を防止し、近代都市に調和した伝統環境を形成するという、なかなか難しい、ちょっと矛盾したところもありますけれども、いずれにしろこういう目標を掲げて、先ほどの近代化事業、金沢診断、伝統環境保存条例を経て、明治維新に次ぐ二度目の伝統と創造、保存と開発の両輪でやっていこうではないかと、基本的なまちづくりの方向を定めるわけです。この二つの近代化に対する金沢の対応は、日本の都市では唯一です。これが金沢の景観の基本構造を形成することになりました。



#

その後、実際にさまざまな活動が起こります。まず、「用水保存」。私は昭和 52 年に東京から金沢に来て、金沢の自律性をつくりたいということで 30 年ぐらい住もうと思って来たのですが、来て初めてある会合に出席したところ、金沢は戦災を受けなかったものですから、大野庄用水、鞍月用水の辺りは道が狭くて曲がりくねっています。それで用水に蓋をして駐車場にしたり、車がすれ違えるような場所にしたりしていたのですが、それを見た薬屋さん、料理屋さん、酒屋さん、網製造屋さんなどのまちの旦那衆たちが集まって「用水は金沢の個性ではないのか。他の都市にはない非常に大事な都市の遺産だ。それに蓋をして車に便利だなどという都市をつくってはいけないのではないか」と議論をしていたのです。私は東京から来て、「自分たちが不便だから当然だろう。もっともっと蓋をしようじゃないか」という議論をするのかと思っていたら、その反対だったのでびっくりしました。その後、市もその方針に従って、蓋を外すようにするのです。特にせせらぎ通り辺りなどはその成果です。

それから、「都市美文化賞」。これは今の兼六園下の消防署のところに、緑色の建物でサッシを赤く塗った旅館ができたのです。これは当時、東京で流行っていたスーパーグラフィックの建築

で、建築全体をグラフィックな画面として立体的に色を塗るもので、真っ赤なしゃぶしゃぶ屋ができたり、ストライプ模様のバーができていたりしていました。その金沢版です。すると、「あれは兼六園下にふさわしくない。色を塗り替えてほしい」「色を塗り替えるよりも壊してほしい」という金沢の市民の意見が新聞の投書などに出てきて、どんどん大きくなっていったのです。そのときに、用水の蓋を外せと言った旦那衆たちが、「これを壊せというのは自由主義の社会ではなかなか難しい。法律上もそれは規制できない。だから、これから自分たちが金沢にとっていいというものを表彰しようじゃないか。これを毎年10件ずつ表彰していったら、数十年たったら金沢のまちも変わるはずだ。その間に金沢らしい建築って何だろう。金沢らしい景観って何だろうということを含めて考えていこうじゃないか」という提案をして、都市美文化賞というものを立ち上げるのです。4、5日前に新聞に今年の文化賞の作品が出ていましたが、確か43回目でしたか。今、建築館で昨年までの42回の全作品を、写真のパネルで展示しています。現在は日本中の都市で都市景観賞などがありますが、早くにこれを立ち上げて、しかも民間で立ち上げて、まだ民間が協力しているというのは、金沢が唯一です。これが金沢の力です。

「兼六周辺文化の森」、金沢の個性ある都心づくり。これは後でも説明しますが、県が金沢の兼六園周辺文化ゾーンというものを企画して、そこをどうつくろうかという提案をするのですが、それを検討する委員は、ほとんどが蓋を外したり都市美文化賞を立ち上げた旦那衆たちです。町衆です。市民です。そういう人たちが議論して、金沢の都心に緑と水のある公園、広場を整備しよう。その中に歴史的建造物を残していこう。それからコンサートホールやシアター、美術館や文化会館をつくっていこう。図書館もつくっていこう。文化ゾーンをつくろうという提案をするわけです。

すなわち、近代都市計画に携わっている者から見ると、普通は都心には商業ビルがたくさんある。あるいはオフィスビルがたくさんある。県庁や市役所がある。そういうビルがたくさん建っていて、高密な都市活動が行われていて、車もたくさん来る、人もたくさん来る。そういうゾーンを賑わいのある都心というのですが、そうではなくて、緑と水の公園の中に文化施設と歴史施設が残っている文化の森という、ある意味でいうと空地に近いような空間がある都心をつくろうという提案をしたというのは、非常にユニークなことです。日本の都市ではほとんどないと思います。

こういう力は、先ほど、明治のときの金沢のまちの旦那衆は、ハイカラも好きだけど伝統的な美意識をきちんと持って商いをしていたと言いましたが、そういうこととつながると思います。私どもは日本生命金沢支社とか大同生命金沢支社の建築保存運動を展開するのですが、そのときも先頭に立って知事、市長のところに運動に行ってくれたのも同じ旦那衆です。東京駅を設計した辰野金吾さんの美しい日本生命金沢支社が今の南町のところに残っていたら、本当にきれいだったと思います。香林坊のところにやはり大同生命金沢支社の建築が残っていたら、本当におしゃれだったと思います。惜しいことをしました。残念です。

そして、「ひがしの継承」。ひがし茶屋街の店が景気が悪くて売りに出たときに、買いに来ているのが名古屋とか大阪の人で、それを当時の江川市長が心配されて「5軒ほど売りに出ているんだが、何とかこれを阻止したい。何とか他の都市ではなくて金沢の人に買ってほしいんだけど」と相談を受けて、若手経済人に相談して買ってもらって他県の人にいくのを防いだのですが、そのころ、ひがし茶屋街は重要伝統的建造物群保存地区の指定を受けようとしていて、それに対して地元は反対をしていたのです。「保存という形で自分たちのまちを縛ったら廃れてしまう。自分たちが自由にいじれない。これは駄目だ」ということで拒否していた時代がありました。

ところが、その買った人たちが茶屋街の入り口近くで蛸屋さんというレストランをやって、真ん中辺りで兎夢、今は十月亭と言っていますがやはりレストランをやって、それからひかり蔵と

いう箔のお店をやって、茶房一笑という喫茶店みたいなものを作ってと、古い建物を保存しながら外観は全くいじらずに、中だけ用途に合うように少し手を加えた店をやったら、非常に人気が出て人がたくさん来たのです。それを見たひがし茶屋街の人たちは、保存と開発を対立概念として捉えていたので重伝建地区の指定に反対したのですが、その5軒を見ると保存しながら新しい使い方をしている。要するに、保存してそれを再利用することは最大の開発だということを知ったのです。保存と開発が対立概念ではなくイコール概念になったことは非常に大きくて、その後、紆余曲折を経て重伝建地区に指定されることになるわけですが、これは非常に大きなことでした。

今、ひがしが非常に人気があるもう一つの理由は、1階の木虫籠を外していないことです。普通はあそこに物販の店とか喫茶店とかレストランが入ると、1階の木虫籠を外してガラス張りになると中が見えるので、それでお客様を呼べるわけです。ところがあの町内会の人たちは、木虫籠を外すのはやめましよう決めるのです。これはすごい決定です。皆さん、例えば高山に行ってご覧下さい。高山のまちなみを歩くと、見えるのはもうずっとお土産物屋ばかりです。建築など見えないのです。「ああっ」と思って、すぐ近くの白川村に行くと、あの大屋根は見えますけれども、大屋根の下の縁側は全部お土産物屋になっています。大内集落に行ってもそうですし、倉敷に行ってもそうです。いろいろなところがお土産物屋だけになってしまっている。それを防いでいるひがしの茶屋はすごいですね。

ひがし茶屋街は、今度の展覧会でも模型を作ったのですが、奇跡ですね。200年も前の姿がそのまま、ほとんど残っています。しかも、木造の家が全部くっ付いています。だから、あれは大きな木造の一軒家みたいなものです。よく火災も起こらずに、基本的なつくり方も変えずに、そして今、木虫籠を守って基本的な景観も守っている。こんなすごい奇跡が起こったというふうに思います。それはみんな市民の力です。

その他、「フードピア」は食べ物のFOODと風土を合わせたイベントです。「浅の川園遊会」は市民力による界限文化イベントです。この浅の川園遊会の連中は界限景観賞といって、自分たちの領域の景観賞を自分たちでつくっています。これもまた珍しい自主的なものです。あと、「創造都市会議」でクラフト、工芸からのクリエイティビティというものを発信し続けています。こういう運動をしたのも、みんな市民力です。

こういうことを伝統と創造、保存と開発を両立させた近代的な都市をつくろうという中で一つやってきたことと、それからこういう力によって今の金沢のまちが生まれてきたのです。「一周遅れのトップランナー」というのは、陸上競技場で1万メートル走っていると、ぐるぐると25周も回ります。そのうち一周遅れの人とトップの人とが一緒になってしまっていて、どちらがトップかビリか分からなくなってしまう。そういうちょっと皮肉を込めた言い方から来ているので完全な褒め言葉ではないのですが、そう言われるようになりました。

金沢のチカラ（地・血・知）



金沢城石川門
（重文）



鼠多門



国立工芸館

#

これが兼六園周辺文化ゾーンです。犀川、浅野川があつて、こんなに広い範囲で、まちに相当する広さがそういうゾーンになっているのです。今、コロナの時代には、本当にここに行ったらいいと思います。空いていますし、最高の都心です。こういう都心を持っていることを、非常に自慢したいなと思っています。

#

21 世紀美術館、これも奇跡ですね。伝統的な金沢に現代的なものを持ち込んで、年間 200 万人を超す人が訪れています。全くないからこそ、それが特徴だと言っていいほどの強さでこれをつくった。哲学です。



21 世紀美術館



鈴木大拙館



いしかわ生活工芸ミュージアム



本多の森ホール



金沢駅東広場 もてなしドーム



谷口吉郎・吉生記念金沢建築館



市民芸術村



職人大学校

#

金沢駅東広場もてなしドーム、市民芸術村の職人大学校、谷口吉郎・吉生記念金沢建築館。こういうものを見ても、いろいろな平成、令和の営みがあるかと思っています。

#

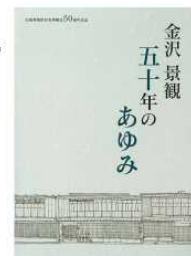
これは 2018 年に出された伝統環境保存条例 50 周年の記念誌『金沢 景観 五十年のあゆみ』です。今まで申し上げましたように、金沢は市民力をもってここまで来たということです。金沢市民の一つ一つの営みの積み重ね。それは建築としてあるというだけではなくて、さまざまな営み、行動もあったということです。バウムクーヘンとモザイクを育ててきている。そこに多様な価値観や美意識を認め合う。創造力ある市民を育てる。そして、ここにおられる景観協力者の方々がいます。つい先週、観音町の 1 丁目、2 丁目、3 丁目の人たちに対して「かなざわ景観協力賞」を贈りました。今日は後で景観サポーターからの報告もあるようです。こういう力によって支えられているということです。

そういうことも含めて、金沢は過去のストックで生きているだけではなくて、それを上手く育ててきている。そこから自分たちがエネルギーをもらっているいろいろな行動をしてきているということ。そういうことも知っておきたいと思います。

それから、モザイクであるということです。古いもの、江戸のものの隣に自分が令和のものを建てるかもしれない。そのときに両方が成り立つようにしてほしい。その悩みをこれから金沢市民は抱えてつくっていくことになると思います。そこにある種の文化の深さみたいなものが生まれてくれば、金沢はますます成長するのではないかと考えています。ご清聴ありがとうございました。

金沢の景観を育む市民力

- ・市民の一つ一つの営みの積み重ね
バウムクーヘンとモザイクを育てる
- ・多様な価値観や美意識を認め合う
創造力ある市民を育てる
- ・景観活動を支援する
景観協力賞
景観サポーター



伝統環境保存条例50周年
記念誌 2018年(H30)

景観サポーター活動報告

「景観サポーターについて」（櫻井）

それでは、景観サポーターの活動報告をさせていただきます。私は、景観サポーターの櫻井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

（以下、スライド併用 #印）



#3

まず、簡単に概要をご説明いたします。私たち、「景観サポーター」とは、金沢市長から任命され、金沢の景観に関する取材や調査を行い、良好な景観形成のために活動する市民ボランティアです。

#4

景観サポーターの取り組みについては、金沢市景観総合計画に示されており、活動の概要は、主に市内の景観チェック、金沢特有の景観資源の調査、景観に係る計画策定への参画、市民や事業者に対する景観誘導の4つです。この4つについて、景観サポーターが協力して活動に取り組んでいます。

#5

現在、第6期の景観サポーター22名が活動を行っています。任期は、平成31年4月から令和3年3月までの2年間です。

#6

こちらは毎月の連絡会議の様子です。金沢の景観についての基礎的な知識や情報を共有し、メンバーの共通認識を高めるため、定期的に話し合いをしています。活動されている皆さんは、常に景観に対して問題意識が高く、金沢に深い愛情を持っていられる方ばかりですので、共通認識も得られやすく、スムーズに活動に取り組むことができました。

#7

また、勉強会では、大学の先生による講義を受けることもあり、金沢らしい景観のあり方について、議論を深めました。

#8

調査活動としては、グループ活動として、老舗の歴史的な看板、定点における観測、眺望景観、景観に配慮した舗装、茶の文化的景観、坂からの眺望についてなど、金沢の景観を構成するさまざまな要素について調査をしました。普段何となく見ていたまちなみも、ある要素に着目することで、すごく新しい魅力を発見することができます。

なお、調査結果をまとめた報告書を会場の後方に置いてありますので、ご覧いただければ幸いです。

#9

その他、金沢の景観について気付いたことをテーマとし、地元の協議会や小学校を訪問し、地域の景観調査にも取り組んでいます。今年は残念ながら出前講座はできませんでした。

以上、簡単ですが、景観サポーターの活動概要について紹介させていただきました。

#10

それでは、この後、ご覧の5つのテーマについて、各担当者より調査結果を報告させていただきます。よろしくお願いいたします。

「看板は街の顔 ～金沢の街を造った看板たち～」(上田)



#1

景観サポーターの上田です。皆さん、こちらの絵をご覧ください。これは明治21年に出版されたものです。人通りも多く、まちが賑わっています。その中心に看板があります。

それでは今から、「看板は街の顔 ～金沢の街を造った看板たち～」の発表をいたします。よろしくお願いいたします。

#2

私たちは、約2年間にわたり、まち歩きをしながら看板の調査をしてきました。金沢のまちには、藩政期からのまちなみにふさわしく、歴史的な趣のあるものが多く見られました。さぞかし古いものだろうと思ってお店の方に聞いてみると、意外と新しい看板だったりすることもありました。また、本当に100年以上前から変わらず掲げてある看板や、教科書に出てくるような有名な方が揮毫した看板もありました。

そこで、その結果を次の二つに分類しました。

#3

一つは、歴史的看板、もう一つは伝統的看板です。歴史的看板は、半世紀以上前に作られたものや著名人が揮毫したものです。伝統的看板は、歴史が浅く、新しいものでも、明治・大正・昭和のデザインの特徴や受け継がれた技法を取り入れて作られた看板です。

#4

まず、歴史的看板に分類したものを紹介します。こちらは、野町にある諸江屋の看板です。揮毫したのは、大乘寺住職の渡邊玄宗です。看板が建物の外観や色彩、大きさと非常によく調和が取れていて、看板が作り出す金沢らしい景観の一つだと思います。

#5

こちらは、尾張町にある森忠商店です。去年、店舗は台湾料理の店になりましたが、百万石通りに面した表の看板は撤去せずに残っています。長くこの地で尾張町の顔として多くの人々の記憶の中に残っている、このまちになくてはならない景観です。

#6

こちらは「中屋薬舗」の看板です。今は長町に移築した老舗記念館の中にあります。室内に保管されることで本来の看板の役目は終わりましたが、まちのシンボルだった看板が、建物と一緒に行政の下で大切に保存されています。

#7

こちらは、亀田薬舗の看板です。鳳凰の彫り物が付いています。右の写真は明治時代のもので、当時は、片町のスクランブル交差点の近くにお店がありました。大変大きな看板ですが、そのころは屋根の上に置かれていました。今は尾張町の黒田香舗さんに受け継がれ、室内に置かれています。

#8

こちらは、兼六園近くにある廣瀬印房の看板です。揮毫したのは、北大路魯山人を育てたといわれている細野燕台です。お店は去年の5月に150年余りの歴史に幕を閉じました。お店がなくなれば看板もなくなってしまうわけですが、魅力ある看板が姿を消してしまうのはとても残念です。私たちのまちをつくってしてくれた看板が、何らかの形で残ることを願っています。

#9

次は、比較的新しいもので、伝統的看板に分類したものです。

こちらは、東山やつはしです。築100年の古民家をリノベーションしたお店です。看板は大正時代の行灯風のデザインを取り入れています。東山というまちの雰囲気壊すことなく、まちに馴染んでいます。

#10

これは、尾山町にある大友楼の看板です。天保元年開業ですが、看板は新しいものです。緑の文字は、珍しいなと思うかもしれませんが、江戸時代、着色できた色は白、黒、朱、金と、あとは緑だったそうです。

#11

そして、この二つはどちらも尾山町にあります。文字はなくともデザインで業種を表しています。斬新なデザインですが、江戸時代に流行った模型看板を思わせます。

以上が調査の概要です。この他にも、金沢のまちでは、歩けば歩くほど素敵な看板に出会うことができます。

#12

ここでもう一つ、金沢市出身の建築家、谷口吉郎先生が幼いころのまちを懐かしんでいる文章をご紹介します。

「(犀川大橋は)私の幼いころの明治時代には木の橋だった。木製の欄干にはグレーのペンキが塗ってあり、橋の中ほどに『カブト・ビール』の広告塔がそびえていた。(略)私の家の向かいには金沢の菓子で有名な『森八』の支店があり、少し行くと『亀田』という薬種屋があった。片町の中ほどに『林屋』という大きな茶舗があり・・・」とあります。亀田というのは、先ほど歴史的看板で紹介した亀田薬舗のことです。また、林屋というのは、今のきらら辺りにあったそうです。吉郎先生の生まれた家は、犀川大橋の手前にあったようなので、本当にご近所さんの風景です。

皆さん、どうでしょうか。こうして看板や店の名前を挙げるだけで、吉郎先生が幼いころを過ごした金沢のまちが、目に浮かんできませんか。看板は本当にまちの顔だと思いました。

#13-14

最後に、少しまとめとして、金沢は、重層性のあるまちです。そのまちをつくっている景観要素の一つに看板があります。看板自体も重層性のあるものになっています。なぜかという、昔からの看板は、当時のまちの歴史を伝え、人々の暮らしを伝えてくれるからです。しかし、どんなにいい看板でもいつかはなくなってしまいます。また、それに代わる新しい看板も作らなくてはなりません。そこで、先人が残してくれた景観を未来に繋ぐために、今、私たちに何ができるか考えてみました。

まず、保全すること。外に置いているとどうしても風化してしまうので、それを修繕し、魅力ある看板を守ること。また、本物を室内に入れてレプリカを屋外に掲げることも看板を守ることになり、景観を守ることにつながると思います。そして、創出すること。新しく看板を作るときは、受け継いだ技術やデザインを少しでも取り入れてみてください。最後に、魅力発信です。こんなにいい看板があるのだとたくさんの人に伝えることです。

#15

そこで、このような「まち歩きマップ」を作りました。このマップは、今日司会をされている石川さんと私の友人でもある高田さんと3人で作りました。春になったらこのマップを持ってまち歩きツアーをしたいねと言いながら、ルートを考えました。後ろに展示してありますので、ぜひお手に取ってご覧ください。きっと新しい金沢の魅力が発見できると思います。

これで発表を終わります。ありがとうございました。

「平成から令和へ ～比べてみました～」(山崎)



#1

景観サポーターの山崎と申します。よろしくお願いいたします。「平成から令和へ ～比べてみました～」と題しまして報告いたします。

#2-3

景観サポーターは、平成 21 年より活動しております。第 1 期の活動はご覧の内容となっております。

#4

その中に、定点観測で写真撮影をして台帳と評価カルテを作成するという活動がありました。金沢市では、景観法を活用し、重点的に取り組む区域として、ご覧の赤で書いてあります 3 地区を指定しています。定点観測は、この区域内を選び、交差点を中心に東西南北 4 方向を撮影しました。定点は 363 か所に及んでおります。

#5

金沢市の地図でご覧いただきますと、中心部以外の濃い色の部分がその場所となります。

#6

では、私たちは何をしたかですけれども、10年前と今とでどのように変わったか、同じ場所を撮影して比べてみました。

#7

撮影したものを比較しやすいように、写真の台帳は、ご覧のように上段には前回撮影したもの、下段には今回撮影したものを表示してあります。

#8

評価カルテは見開きで作成しております。

#9

363 か所全部は表せませんので、その中でも変わらなかった場所、変わった場所を数点取り上げて紹介いたします。また、私たちが気になった場所も整理してみました。

#10

まずは、かねがね変わらなかった景観ということで、彦三町・尾張町地区です。

#11

平成 21 年のものです。

#12

こちらは昨年撮影したものです。

#13

かねがねイメージは変わっておりませんが、こういった路面に書かれましたラインはちょっと気になるかなと思います。

#14

古いまちなみだけではなく、新しいまちなみでも変わらない景観ということで、白銀町交差点の方からリファーレ方向を見たものです。

#15

これは平成 21 年のものです。

#16

こちらは令和元年のものです。あまり変わってはいません。

#17

こちらですけれども、この空き地は 10 年以上前から駐車場のままとっております。

#18

まちなかには、こういったコインパーキングがかなり増えているのが目立ってきています。

#19

次は、変わった景観ということで、金沢駅の東口の方です。

#20

こちらは平成 21 年、もう既に鼓門は完成しておりました。

#21

これが令和元年に撮影したものです。

#22

金沢港口、西口ですけれども、右奥に建設中の建物が見えます。

#23

これが昨年完成しましたクロスゲート金沢です。話題となっておりました。

#24

兼六園口、東口の方ですが、都ホテルの跡地が今注目されています。

#25

次は、大幅に変わった景観ということで、新幹線の高架沿いです。長土堀の方です。

#26

これが平成 21 年のものです。かなり前のような雰囲気が感じられます。

#27

こちらが令和 2 年（昨年）撮影したものです。同じ場所とは思えないくらい変わっています。

#28

ここからは、メンバーが撮影して気になった場所ということで、まず、防災か景観かということで気になった場所を紹介します。八坂の方です。

#29

こちらが平成 21 年のものです。

#30

こちらが令和元年に撮影したものです。

#31

一見、あまり変わったようには見えませんが、松山寺さんの山門の斜面に擁壁が施されています。もちろん防災面を重視されたのだと思いますが、景観にも少し配慮があったらどうかなと私

たちは思いました。

#32

次は、無電柱化です。広小路から寺町方向の様子になります。

#33

こちらが平成 21 年のものです。

#34

こちらが令和元年、かなりすっきりした景観となっています。

#35

無電柱化は、小立野や大手町の方でもされています。

#36

さらに、広小路の方ですが、こちらは平成 21 年のものです。

#37

こちらが令和元年のもので、先ほどありましたアーケードが取り外されて、すっきりとしたイメージとなっています。

#38

続きまして、広告物です。

#39

平成 21 年、こちらは香林坊 109 です。

#40

令和元年、TOKYU SQUARE へと変わりましたが、お気づきでしょうか。

#41

こちらの壁面広告がなくなりました。高級感を訴求した結果、こちらの方がすっきりしてよろしいかなという判断をしたと聞いております。

#42

ここからは、私たちが 363 か所以外に新たに定点として選定した場所を紹介いたします。

#43

その中でも、今後変わると思われる場所、保全状況を確認していきたい場所を定点として観測していこうということで選びました。

#44

まずは、旧北国街道の山の上町と大樋町です。

#45

こちらが令和元年に撮影したのですが、旧北国街道の山の上町口と大樋口です。街道沿いのこうした建物も、今後どう変わるかということに注目しております。

#46

次は大野町です。

#47

大野町4丁目の風景ですが、こちらも独特の特有なまちなみがありますが、こういった風格のあるまちなみがどう変わるか注目しております。

#48-49

こちらは海側幹線ですが、直江町から大河端にかけまして、今は本当にすっきりしておりますが、どのように発展するか注目のところとなっております。

#50-51

今後注目していきたい場所ということで、無電柱化ということですが、広小路から野町にかけましては、現在、道路拡張とそれに伴う無電柱化工事が進んでおります。

また、無電柱化は、下の写真にあります下新町や神田町でも計画されています。

#52

建物の移転や跡地利用についても、皆さん関心があるかと思います。

#53

計画されております日本銀行金沢支店と新石川県立図書館の方がどう変わるか注目です。

#54

さらに、金沢歌劇座、あるいは工事中の金沢市立中央小学校、または旧都ホテル、旧 JT 金沢工場の広大な敷地跡地は、いろいろ計画がありますが、今後どのような景観になるか注目していきたいと思っております。

#55

数々紹介してまいりましたが、私たちは生活者としての市民目線と愛ある取材活動を通じまして、魅力ある金沢の景観向上のために、今後も景観サポーターとして、こういった定点観測を含め、活動して役割を果たしていきたいと思っております。

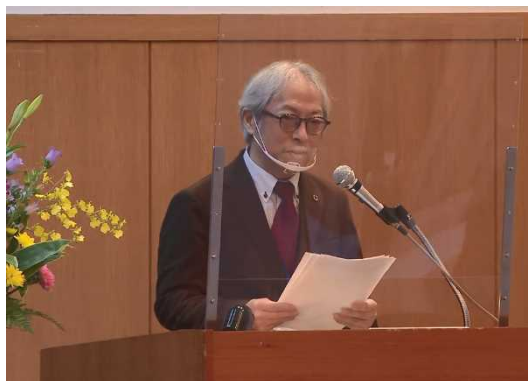
#56

以上で報告を終わります。ご清聴ありがとうございました。

「金沢市まちなか区域の景観舗装」(上坂)

#1

続きまして、無電柱化(景観舗装)チームの報告をさせていただきます。私は、今期から景観サポーターとして参加させていただいております上坂と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私たちチームは、まちなか区域における景観舗装について調査をしてみました。



#2

発表の流れは、こちらのとおりでございます。

#3

メンバーは、この5名でございます。今回の目的は、これまでに多くの路線で実施されてきました景観舗装について、今後これらの老朽化した舗装の改修や新たな景観舗装の検討を行う際の基礎資料となるものを作成しようということでございます。

#4

調査の範囲はこちらのまちなか区域でございまして、これは旧城下町の区域ということであります。また、無電柱化整備の促進区域でもあります。

#5

調査した路線は全部で166区間、約51kmで、国・県・市道の区分、路線名、延長、舗装種別、材料、色、整備コンセプト、損傷の状況などを調べて、カルテとして取りまとめをしました。

#6

景観整備の経緯を簡単に紹介いたします。ご存じのように、武家屋敷界限跡に残る土堀の修復などを皮切りに景観整備が始まりましたが、その後、昭和63年の潤いの道づくり事業をはじめ、さまざまな事業を創設し、修景整備が行われてきました。

#7

調査の結果の概要です。景観舗装の種別を整理したものがこちらです。ブロック系やアスファルト系の舗装が半分以上を占めておりますが、石畳や洗出し舗装が多くあるのが金沢の特徴です。

#8

こちらは景観舗装の色を整理したものです。ここで金沢の地になる色につきましては、歴史的まちなみなど木造建築が多いことから、市の景観計画では、「木色(もくじき)」を推奨する色としております。また、特別な色として捉えられているのが、金沢城石垣にも用いられている戸室石の赤色ではないかと思います。

これらのことが景観舗装の色にしっかりと反映されていることが確認できました。赤系やベージュ系が半分以上を占めておりますし、グレー系など落ち着いた色も多くなっています。

#9

次に、景観舗装の特徴について、整備された場所別で簡単に紹介してきたいと思います。

#10

まず、駅周辺と駅通りです。金沢の玄関口として、先ほどの戸室石の赤色を意識した赤系の御影石やブロック・タイルを用いた舗装が施されています。特に、もてなし広場や近江町市場につながる駅通りは、御影石で気品漂う玄関口としての装いが整えられています。

#11

次に、駅通りから中心繁華街へと続く都心軸では、ブロックやタイル系の舗装となっています。いずれもグレー系で、まちなみを邪魔しない舗装になっているかと思います。

#12

金沢城公園や兼六園周辺、武家屋敷跡界限は、いずれも江戸時代の風情を鉄平石乱張りの石畳と洗出し舗装で演出がされています。

#13

ひがし、にし、主計町の三茶屋街は、本格的なまちなみ整備のはしりということもあり、また100年後に残るまちなみづくりをしようということで、本格的な石畳舗装が採用されています。全国的にも石畳が流行った時期ということでもございました。

#14

それから、明治期以降、軍都・学都として栄えた金沢を象徴する建物周囲は、その建物に合わせてレンガ舗装が採用されています。

#15

中心商店街のうち、表参道は東・西別院の門前通りとして、堅町は金沢のファッションタウンとして、石畳で高級感を演出するなど、それぞれの特徴を意識した舗装となっています。

#16

その他、夜の飲食街は無地のアスファルト系で、やや規模の小さい地域商店街は活性化を意識してブロックにより賑わい感を、坂路や用水沿いは歴史や周囲の環境に合わせた舗装がそれぞれ施されています。

#17

以上、まとめると、このような感じとなります。このように、昭和60年代から進められてきた景観舗装ですが、30年ほど経過すればいろいろな課題も生じております。

#18

その中でも大きな課題が、景観舗装材料の調達に関するものです。これは先ほど紹介した駅通りですが、整備時期の違い、補修跡なども色合わせが上手くできておりません。ブロックやタイルなど二次製品も廃番になってしまっていて同じ材料が調達できないという課題もあります。できるだけ整備後に不揃いにならないように、全面一色ではなくて近似色でランダムに配置するといっ

た工夫も、一つの対策ではないかと考えております。

#19

それから、耐久性の面では、樹脂系舗装といわれるものが紫外線劣化で著しく損傷したところが見られています。

#20

乗り入れ部分では、最近では強固になるコンクリート舗装、型押しで舗装するものがよく使われています。

#21

樹木の根茎による路面の持ち上げも大きな問題となっております。

#22

意匠の変化点についても十分な工夫が必要だと思います。

#23

視覚障害者ブロックも、条例に基づいてできるだけ早期の改修が望まれるところかと思います。

#24

側溝や排水路表面についても、場所によっては化粧を施すなど、あるいは開渠として残すという方策もいいのかなと思います。

#25-27

それでは、最後に我々メンバーが選んだ金沢らしい景観舗装を紹介したいと思います。まず、金沢らしいまちなみと調和した景観舗装 10 選です。ひがしの茶屋街、主計町茶屋街の裏の路地の部分。

それから、武家屋敷界限、お堀通り、駅通り、天徳院参道、尾山神社参道、本多の森、石川橋、梅の橋を 10 選に挙げました。

#28-30

次に、坂路の風情に調和した景観舗装 10 選です。石伐坂、くらがり坂、紺屋坂、嫁坂、八坂、あかり坂、馬坂、小尻垂坂、大乘寺坂、長良坂を 10 選に挙げました。

#31-32

次は、商店街の特徴を演出している景観舗装として 5 つ挙げました。まずは、せせらぎ通り。それから、タテマチ、表参道、玉川町、柿木畠の 5 か所です。

#33-34

最後に、きめ細やかにデザインされたところとして 5 つ挙げました。こちらは、クロスゲート周辺です。

それから、駅前別院通り、里見町、大手門通り、御影大橋と元車交差点広場の 5 か所です。

#35

以上で、私どもの報告を終わりたいと思います。ご清聴ありがとうございました。

「茶の湯が育む文化的景観」（福岡）

#1

景観サポーターの福岡澄子です。よろしくお願いいたします。「まちなかの茶室と茶の湯が育む文化的景観」を探してみました。



#2

金沢の文化の原点ともいえる茶の湯。加賀藩では、初代利家が千利休や織田有楽斎から指南を受けた武将茶人であり、その茶道精神が2代利長以降引き継がれ、文化振興に力が入られました。3代利常は傑出した文化大名で、小堀遠州から学び、千仙叟宗室や金森七之助を「茶堂茶具奉行」として招き、茶の湯を奨励しました。藩士から町人まで広く浸透し、茶室も多く造られ、茶道具、菓子や料理、美術工芸の分野も発展していきました。

#3

左上は、大手町にある千仙叟宗室の屋敷跡です。現在、奇しくも裏千家業躰・奈良宗久先生の茶道道場となっております。左下の仙叟の菩提寺・月心寺では、月命日に月釜が90年以上続いています。右上の大手町にある寺島蔵人邸には、450石の武士の茶室がそのまま現存しており、その茶室で呈茶も頂けます。右下の芳斉町にある高厳寺には、金森宗和の碑や茶筌塚が残っています。

#4

金沢市内には、200以上の茶室があるといわれています。土縁が特徴の雪国の茶室や、藩主ゆかりの茶室、千仙叟や家元、旧家ゆかりの茶室など、歴史的由緒ある茶室が多く現存し、金沢ほど茶室が整備されている都市は全国的にも少ないといわれています。ただ、市中の茶室は、ほとんどが個人所有や非公開です。

#5

その中で、市や県が運営する茶室が16カ所あります。文化的事業や茶会に使用でき、茶道具も備えられた施設です。そのほとんどが歴史的由緒ある茶室ですが、市や県が造った茶室もあります。「閑静庵」は、昭和57年に金沢四百年記念事業として、文化ホール内に、学会やイベントの合間に呈茶でおもてなしできる茶室として、外履きで出入りできる立礼席も設けてあります。「対青軒」は、昭和43年に旧県立美術館の別館として造られたもので、地元建築家・谷口吉郎氏設計の座礼と立礼を組み合わせた茶席です。また、対青軒の席名は、画家・俵屋宗達の雅号です。

#6

金沢市運営の茶室が9カ所、石川県運営の茶室が6カ所、金沢の中心市街地に歩ける距離にあります。もう一つは、金石の方の銭五会館の方にあります。

#7

21 世紀美術館敷地内には藩主ゆかりの「松濤庵」、加賀八家の長家本邸にあった「腰掛待合」や「砂雪隠」、砂雪隠とは、穴の開いていないトイレのことです。また、「山宇亭」は旧家直山家のお茶室で、これらが移築されています。

#8

中村記念美術館敷地内には、昭和 3 年建築の旧中村邸が昭和 41 年にこちらに移築されたときに、庭に「梅庵」というお茶室ができました。「美術の小径」のふもとの、滝の音が聞こえるところにあります。

「耕雲庵」は、江戸時代末期、栗崎の豪商・木屋藤右衛門が京都の数寄屋大工に建てさせた茶室です。平成 13 年に「緑の小径」の出入口の方に移築されました。

#9

金沢では、大寄せ大茶会が「市や県が運営する茶室」で開催されていますが、これは全国的にも珍しく、他の都市では、同じ日に複数の茶席を設ける催しは「寺院建築」です。金沢は、同じ日に、歩ける距離に、複数の大寄せ茶会が開催できる「茶室建築」を抱えており、そのようなまちは京都と金沢くらいといわれます。

#10

その大寄せ茶会の一つが、百万石茶会です。百万石まつりに合わせて、2 日間、7 会場、6 社中によって開催されます。金城霊澤でお水取りの儀があり、尾山神社での献茶式のお水が、各茶席の床に飾られます。

#11

もう一つが、金沢城・兼六園大茶会です。秋の風物詩ともいわれ、3 日間、5 会場、13 社中によって開催されます。

#12

この茶会は、地元作家の新作茶道具を使うということで、全国的にも珍しい茶会です。茶席の茶道具は、工芸作家への委嘱作と一般公募出品の入選作から、各社中が組み合わせます。文化勲章受章者や芸術会員、人間国宝ら重鎮とともに、新進気鋭の作家の作品でもてなす茶席です。美術工芸王国の粹と、茶の湯文化の厚みを伝えているようです。これは国内の三大茶会の一つでもあります。

#13

美術工芸王国・金沢では、茶の湯に縁の深い工芸が脈々と受け継がれています。また、それらを生業とされている方たちも多くいらっしゃいます。

#14

金沢には和菓子屋が多く、消費金額が全国トップです。その要因が二つあります。一つは、真宗王国という土地柄、仏事に伴った和菓子が浸透し、節目や季節や風習に広がり、庶民に欠かせないものになった普段のお菓子「朝生」。二つ目が、茶の湯が盛んになるとともに茶席の創意工夫の中で菓子職人が研鑽を積み、芸術的な域にまで達した茶席のお菓子「上菓子」です。大寄せ茶

会では、茶席ごとに菓子舗が違うので、茶席菓子専門の「吉はし」他、老舗店や多くの菓子舗が茶席菓子を作ります。

#15

茶席菓子は、上生菓子、棹菓子、干菓子に分かれます。右下の蓮根羹は、金沢の茶人・越沢宗見が発案したもので、家元好みにまでなった棹菓子です。真っ白なみずみずしい新レンコンをすりおろして作る、夏のほんのわずかな期間だけに作られる、金沢だからこそ生まれたといわれる逸品のお菓子です。

#16

抹茶の老舗店も多くあります。創業 130 年の米沢さん、創業 160 年の野田屋さん、はやしやさん、上林さんなど、市内には茶葉店が多くあり、路地からは茶葉を炒る香りも漂っています。

#17

全国学生大茶会、これは 2019 年に全国初の試みとして、茶の湯文化が根付く金沢で開催されました。全国 25 大学の茶道部員 210 名がお点前を披露する、大学の茶の祭典でした。当日、茶席では、「全て素敵で茶席で光栄だった」「歩いて回れて交流もできた」「手ぶらで来ても全てこの土地でお道具がそろった」という学生たちの言葉を聞くことができました。

#18

明治維新後、各地の旧大名家が困窮し、市場に流れた名品が金沢に入ってきて、それらの名品が旧家の旦那衆や新興実業家により収集されました。昭和 30～40 年代には地元政財界の多くが茶人で、茶をたしなみ、茶席は密談の場であったといわれ、経済人たちは茶道具を名誉と財産として求め、また金沢の名家などから茶道具の売り立てが出ると、金沢の茶道文化を守るべく、名品を収集したことにより、金沢は茶道具の宝庫となったといわれます。

#19

美術館では、旧家の名品に出会えます。県立美術館は超一級の茶道具を収蔵品の核としてスタートしています。中村記念美術館は、酒造業を営んでいた中村栄俊氏が長年集められた名品の宝庫ですが、「美術品は一個人のものでなく、国民の宝である」という信念で公開され、金沢市に寄贈されたものです。

#20

また、金沢は北陸地方の美術品取引の中心として、骨董会の五都ともいわれています。

#21

その理由には、全国トップレベルの目利きの美術商の存在があり、十間町には谷庄さん、平寿さん、石黒さんなど、目利きの美術商が並んでいます。あと、マップには 30 ほどの店舗が載せられています。

#22-23

金沢は、茶の文化と景観が融合するまちではないかと思います。美術館を見学し、素晴らしい作品と出会い、そしてゆっくり耳を澄まし、目を凝らし、まちなかを歩くと、工芸家や職人さん

が住む町筋では、営みが聞こえてきそうです。古美術店、陶器店、漆器店、茶葉店、菓子舗などの店先、ウィンドウは、歳時記のようです。季節や風習、節目、金沢の文化をも表しています。その後、茶室をめぐり呈茶を頂いてみませんか。通りからの外観を見、茶室内の風情、路地、茶席菓子、抹茶椀、薄茶など、日常と違う出会いが多くあります。

金沢のまちなみは、茶道を知らなくとも、ただ歩くだけで茶の湯の文化の素養が感じられるようです。

これで終わります。ご清聴ありがとうございました。

『坂』下からと上からの眺望景観（高木）

#1

こんにちは。『坂』下からと上からの眺望景観について報告します。高木と言います。よろしくお願いします。



#2

金沢の地形です。浅野川と犀川、そして卯辰山、寺町台地、小立野台地、その先端に金沢城が位置します。二つの川がつくる河岸段丘と、城の東西に二重に造られた堀、これが金沢が坂が多い理由となっています。

#3

今回訪ねた坂は、51 か所ありました。それを五つのゾーンに分けて調べてみました。その坂の歴史や特性、そして概要などを、景観評価シートに記載しました。写真もたくさん撮りまして、それを写真帳に記録しました。

#4

「坂」からの目線ということで、下から目線、上から目線の眺望景観を見ます。そして、多角的感覚で新しい魅力や課題を探る。とにかく下から上を見る、上から下を改めて見る。そして、その地形はどうか、地勢はどうか。その坂の由来はどうか。それから季節的な変化はどうか。諸々、いろいろ調べてみました。

#5

事例その①、にぎわい坂。最近では 109 坂ともいわれています。

#6

景観評価シートには、このようにして表しました。場所・名称、位置図、そして上からと下からの写真。そして、その坂の景観特性・概要等を載せております。

#7

これを A4 版で表しまして、大きくしますと上の部分はこういう感じになります。

#8

そして、下の部分に諸々と書きました。

#9

それから、写真帳は全部で 15 枚入れてあります。

#10-11

景観特性ですが、この場合、藩政時代は西外惣構堀であったところで、坂道はありませんでした。西外惣構堀は前田利常が命じて造ったということです。全長 2.8km あります。そして、明治以降に切り開かれて鞍月用水に橋を架けて、それが「にぎわい橋」となったわけです。

下から上を眺めると、大和デパートが前に立ちはだかっているように見えます。

そして、上から下を見ると、前に公園があります。にぎわい広場です。

このにぎわい広場の中に、ハート形のタイルが 21 枚あります。全部見つけると貴船神社の縁結びが叶うという噂があるようです。

#12-13

そして、坂の横を見ると、昔の石垣の遺構の上に、こんな建物が建っています。

そして、その坂の惣構堀の城側の土居沿いに、藪ノ内通が高岡町方面まで続くわけです。

この惣構堀の土を土居の上に盛り上げて藪を付けたということで、その後ろ側を藪ノ内と言うわけです。

この日銀の塀の下の方に、こんなマークが入っています。

#14

事例その②です。右衛門橋坂、よもんど橋とも言います。

#15

これも、景観評価シートと写真帳はこのようにして表しました。

#16

まず下から上を見ます。

上から下を見るとこんな感じです。

そして、坂の両サイドは、せせらぎ通りの飲食店街ということです。

もう一度下から上を見ます。北国街道から続く小径を、昔は「紙屋小路」と言っていました。右側に金沢醸造の祖であります紙屋九右衛門のお宅があったということです。

#17

事例その③、お城の中です。雁木坂と言います。極楽橋と本丸付段の間にある坂です。

#18-19

これも景観評価シートと写真帳は、このように表しております。

極楽橋から本丸付段の方を望む下から目線です。

面白いのは、高さや幅が段ごとに異なっていることです。だから、普通に歩くとこけてしまうわけですね。

これは上から見たところ、本丸付段から二の丸を望んだ上から目線のものです。

#20

事例その④、卯辰山寺院群の西養寺さんです。

#21

これも、このようにして表しました。

#22-23

下から上を望むと、目がくらむような階段があります。この階段は 60 段あります。

一生懸命上って行って見下ろすと、「ああ、来たか」という感じになるわけですね。これが上から目線です。

そして、目線を転じて遠いところから見ると、このような景色が見えるわけです。電柱と電線が蜘蛛の巣みたいに張って景観的には気になるところですが、人間の目というのは面白いものでして、見たいものをずっと見ていきますと、こんなものは気にならなくなるのですね。

#24

こういったことで、皆さんも坂の上から目線、下から目線をもう一度確認してみてはいかがでしょうかということで、お話を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

パネルディスカッション「金沢の景観の魅力を未来へ繋ぐために」

コーディネーター：木谷 弘司 氏（金沢市まちづくり相談員）

コメンテーター：水野 一郎 氏（谷口吉郎・吉生記念金沢建築館館長／金沢工業大学教授）

パネリスト：上坂 達朗 氏（金沢市景観サポーター）

中西真美子 氏（金沢片町まちづくり会議）

丸谷 耕太 氏（金沢大学准教授）

横江 憲哉 氏（武家屋敷跡 野村家 代表）

（木谷） 木谷です。よろしくお願いいたします。
先ほどから景観サポーターの方々のお話を、今年もすごいと感じながら聞かせていただきました。本当に景観というのはまさに金沢市のアイデンティティと言ってもよいのではないかと思いますし、必ずしも見た目やハードだけでなく、市民の誇りや営み、そんなものにしっかりとつながるものだと思っています。そして、景観の魅力というものの自体は、本当に市民の皆様によって支えられてつくられ、育まれてきたものだと思っています。



今日は、4名の方をお迎えしています。今ご紹介がありましたように、4名の方ともかなり立場の違う方をお願いしております。これから先、景観を繋いでいくという今日のテーマに向けて、何かヒントが掴めれば、そんな会にできればと思っております。40分と時間が短いので多少散文的になることはご容赦いただきまして、早速話を始めていきたいと思います。

まず、それぞれのお立場から、この金沢の景観というものをどんなふうに見て、何が好きで、何にこだわりがあるか。そういったようなことを少しお尋ねしたいと思っています。最初に、上坂さん、上坂さんはコンサルタントであり、また、今回発表していただきましたように景観サポーターとしても取り組まれています。この金沢の一体何に魅かれているか、こだわっているか。そういったような感覚で少しお話しいただければなと思います。

（上坂） ありがとうございます。今ほどコンサルタントとご紹介いただきましたけれども、建設コンサルタントです。土木系の設計をしております。実は先ほど発表させていただきました景観舗装、幾つかは私自身が設計をさせていただいたところもございました。そういうことに携わってきた者でもあるのですけれども、今日は景観サポーターとしてここでお話をしなければいけないのかなと思っています。

金沢で景観整備が進められてきて 30 年余り経つわけですが、その中では市役所の景観政策の皆さんももちろんですし、景観サポーターの私の先輩方、私は今期からなので、私よりも先に景観サポーターをされていらっしゃる皆様方のおかげもあって、本当に美しいまちになってきたのではないかなと思っています。特に他の都市と比べて本当に金沢はすごいと思うのは、屋外広告が本当に少ないことです。もちろん旧城下町区域ですが、本当に少なく、美しいまちだなとつくづく感じています。先般も新聞にのぼり旗のことが出ていましたけれども、ああいうものも今後整理されていくと、本当にもっと良くなるかなと思っています。

そういった金沢ですけれども、周りを見渡すと豊かな自然があって、卯辰山だったり、小立野なり、寺町の斜面緑地の緑だったりというものがすぐに目に入ってくる。それから、まちなかでもちょっと古い屋敷地などの見越しの松だったり、そういった自然物がつくり出すまちの魅力と

というのが金沢のすごくいいところではないかと思いますが、そこにまた歴史的な空間が広がっていて、そこで育まれてきた文化やそこでの生活、営みというものが、このまちの魅力だなとつくづく感じています。そういったものをしっかりこの後も継承していけるような取り組みを、景観サポーターとしてもやっていきたいなと思っているところです。まずはそういうところですかね。

(木谷) ありがとうございます。そうしましたら次に中西さん、本当に長い間、中心商店街のまちづくりスタッフということで、いろいろなご尽力を頂いています。そこで少し、商店街という結構どこでも同じようなところもあるかと思うのですけれども、金沢らしい商業空間とかそんなことも少し織り交ぜながら、あるいは来街者の方にどんなふうにもちを楽しんでもらいたいかなというような観点で、お話しいただければと思います。

(中西) 皆さん、こんにちは。金沢片町まちづくり会議の事務局ということで今日は参加させていただいているのですけれども、片町商店街振興組合のスタッフとして、20年ぐらい中心部の商店街のお仕事のお手伝いをさせていただいています。

商店街のスタッフの立場としていつも思っているのは、まちはただ商品売り買いする場所ではないということです。ただ普通に商売をするだけだったら、今の時代はネットショップなどでもお買い物はできると思うのですが、まちに来ていただいて、楽しくて心地良いなという気持ちになってもらって、どんどんまちを歩いていろいろなお店を発見してもらったりとか、あと、これは金沢のまちの良さだと思うのですが、まちの機能がぎゅっと中心部に詰まっているので、商業だけではなく観光だったり、文化施設だったり、片町商店街は夜になると繁華街としての魅力もありますし、ちょっと足を延ばすと犀川大橋からきれいな景色が見られたりと、本当にただ事務的にお買い物をするだけのまちではないので、商店街としてはそういう季節感や楽しさというものをいつも感じてもらいたいと思って事業をしています。具体的には、片町きららの広場で秋口だったらハロウィンの装飾をしてみたり、冬場だとクリスマスツリーとか、今はクリスマスツリーが雪吊りに変わっているのですけれども、地元の人だけではなく観光客の人にも楽しんでもらえるようなしつらえをしています。



片町まちづくり会議の活動は、商業だけではなく地元の町会の方も一緒になって取り組んでいるのですけれども、主に犀川大橋や周辺の河川空間の魅力をもう一度見直そうということで、皆さんで河川敷のライトアップをしたり、2024年に100周年を迎える犀川大橋は構造がすごくきれいなので、きちんとライトアップをして皆さんにきちんともう一回見てもらいたいなと思っています。こういうことは直接商業に関わる話ではないのですが、そうやって歩きたくなるまちづくりをして、皆さんにまちに来て楽しいひとときを過ごしてもらうことは、商店街の役割としてすごく大事なのではないかと考えていて、あと、清掃活動やお花植えなどにも積極的に取り組んで、まちの変化に敏感に気付けるようにしていくことが大切なのかなと思っています。

(木谷) ありがとうございます。すごいですね。商店街の活動というと、正直言ってご商売をされている方々だけの集まりかと思っていたら、町会という一般の方々も取り込んでというか、一緒になっての活動なのですね。

そうしましたら、次は順番で丸谷先生にお聞きしたいと思います。丸谷先生は5年前に金沢に

移住されて、今は金沢大学で教鞭を取っておられますが、その5年の間に、金沢の地域、市民の方々とまちづくりをされ、中には学生さんと一緒になって取り組んでおられますが、外から来た人が見た金沢の魅力であるとか、特にまちづくりに関わる市民とか学生さんとか、そういった方々の特性というか、お感じになるようなことを少し教えていただけますか。

(丸谷) ありがとうございます。金沢大学の丸谷です。私は金沢大学の地域創造学類というところに所属してまして、元々地域づくりやまちづくりに関心がある学生がとても多く集まっています。ですから、金沢に来て、そういうまちづくりの活動に関わりたいとか、一緒に何かをやっていくということに関してはすごく積極的で、実際に私も地域に入ってまちづくりの活動をしているのですが、学生が住民の方々と一緒に話し合いながら、このまちをどうしていこうかというようなところでは、すごく僕も助かるぐらいエネルギーを持って活動してくれています。

幾つか質問に答えていきたいと思うのですが、はじめに、まず金沢の魅力は、私は金沢に来て5年経ちましたけれども、どんなところにあるのかというところですが、すごく難しく、たくさんあるのですが、水野先生から、金沢にはいろいろなものがモザイク状に存在していて、歴史的な重なりもあるというお話もありましたが、本当にそのとおりかなと思います。

私が金沢に来て一番すごいと思うことは、大事なこと、あるいは金沢に適応した金沢らしいものというものを、皆さんが共通意識として持っているというところがすごく重要だなと思っています。他の地域でこういう話をすると、まずは何を大切にしなければいけないのかということを議論しなければいけないのですが、その素地が恐らくこの50年以上にわたる景観の取り組みみたいところでできていて、市民一人一人が日常生活の中でそういう話ができるところがすごいなと思っています。

でも、一方で学生は、まちの中に住んでいないという状況があって、まちのことを体感として知らないというところが一つ大学の教育に関わっているところで問題だなと思っています。ちょっと郊外に出てしまって、大学の周りに住んでいる学生がまちなかにいない。そろそろ1年経つ1年生90人ぐらいに「東山の茶屋街に行ったことがある人」と聞いたら、地域づくりに興味があるのに、2割ぐらいしかいないのです。地域づくりでは行って何か体験するということがすごく重要なのに、本当に行ったことがない。

今日、景観サポーターの方々のご発表がすごいなと思ったのは、それぞれの視点でまちの景観について考えて、まちの見方みたいなものを一つ一つ発表していただいたことで、こういう活動に学生もどんどん関わりながら、まちについて考えるきっかけになっていくことが、また次世代の共通意識を育てていくのかな、そこら辺が重要だなと思っています。

(木谷) 今のお話の中の「金沢らしい」については、何となくみんな似たような感覚を持っているというのは金沢の人間はみんな思っているのでしょうかけれども、実を言うと金沢らしさというのは何だということを言葉にして表せと言われると、もしかしたらこんなに難しいものはないのかもしれないなと、少し感じました。

そうしましたら、次に横江さんにお尋ねしたいと思います。横江さんは野村家という武家屋敷を運営されていて、しかも設計士さんでもあるのですが、まず一つはこういった古い、金沢の財産と言える建物が、金沢の景観やまちづくりというものにとってどういう役割を担っているとお感じになっているか、野村家を守って運営していくというご苦労などと併せて、少しお話しいただけませんか。

(横江) 武家屋敷跡野村家の代表の横江と申します。野村家自体は開館して40年ほど経ちま

す。当時はまだそんなに観光客の方はいらしていない状況だったのですけれども、新幹線が開業してからたくさんのお客様に来ていただけるようになりまして、本当にありがたいことなのですが、逆にたくさん来ていただくとそれだけ建物が壊れていくというか、いろいろ修繕するところが出てくるのです。

特に床が沈んでしまう。沈んでしまうので、床の下に根太という下地があるのですけれども、それを太いものにするとかそういったことで補強する。それでもどんどん沈んでいって、床鳴りがするのです。お茶室の床とかも軋むのですね。逆にお客さんはそれを「ここはうぐいす張りなのですね」と勘違いされる方がとても多くて、「これは老朽化で鳴っているのですよ」という説明をしているのですけれども、そういった苦労といえますか、うれしい苦労なのですか、そういったことがあります。

歴史的な建物がどう金沢の景観に影響を及ぼすかということになりますと、先ほど水野先生がおっしゃったように、そういうものがあることによって、近隣に住んでいる人たちにそんな建物や用水、土塀に合わせたものにしたいという気持ち、美意識が芽生えてくるというところが一番だと思います。その一つとして、以前は私どもの敷地の中にある土塀が、モルタルのリシンで吹き付けてあったのです。それは土塀ではないですね、塀があったのですけれども、そういったものもやはりまちに合った土壁にしなければいけないねというところから、職人大学校の方に協力いただいて土壁に替えて薦を掛けたとか、そういったことも積極的にしたいなという気持ちが芽生えてきます。そういったところが歴史的な建物の発信する力なのかなと思います。

（木谷） 先ほど横江さんとお話をしていて、感心したことがありまして、野村家自体は移築されたということで、先代さんの時代ですけれども、当初は普通に壊して新しく開発していく予定だったのが、周りのいろいろな識者の方などが、これは大切な建物だからというような形でお話をされて、それを意気に感じて残してくださって、今があるということだそうです。それをお聞きして、自分たちの知らない中でもこのまちのいろいろなもの、一つの建物やこのまち自体が、多くの市民の方々、企業人の方々の心意気とかそんなものによって支えられているのだなということで、すごく感心しました。今も横江さんがそれを続けておられるということなのだろうと思います。

水野先生、今までの話で、一巡目なのですけれども、思われたことがございましたら、先ほどの景観サポーターさんの発表も含めてお話しいただけますか。

（水野） 金沢では、今回の景観サポーターの方も、今のパネリストの方たちも、景観に何らかの形で参加しているのですね。やはり多くの都市ではなかなか参加してくれない。それには、縁遠い話だとか分からないとか面倒くさいとか、いろいろな理由があるのですけれども、金沢の場合はみんな自分の周りを含めて良くすることに対して行動する。それがいつ、どのようにしてこんなふうになったのか不思議でしょうがないところがあるのですが、どこに行っても皆さん元気で、今日のサポーターのレポートにしても、大学で学生の発表を聞いているみたいな感じもするのですけれども、それは単に今だけではなくて、例えば私は片町の商店街も、寺町のまちづくりの会も、観音町のまちづくりの会も「かなざわ景観協力賞」で表彰したのですけれども、その3つの組織も私たちの前の世代の大正・明治生まれの人たち、それから私たちと同じ昭



和の生まれ、それからその後の平成・令和の子どもたち、みんな参加するのですよね。このエネルギーは何だろうなともいつも思います。

そういうことが自然に入ってきている厚みみたいな部分、これは非常にいいと思います。ただ、いつも皆さんから聞かれて悩むのは、回答を作るのが難しい。それは金沢だからやむを得ないですね。いろいろな時代のものがあって、ごちゃ混ぜでありながら、どうしたら均衡を保っていつて、これはすごいねというモザイク模様をつくれるか。このエネルギーは大変です。それに悩んでいる。悩んでいることが金沢らしいのかもしれませんがね。

(木谷) ありがとうございます。確かに今のお話にもありましたように、金沢人というのは議論が好きで、考えるのが好きでということはよく言われていて、もう少し考える前に動けと、昔、仕事をしながらよく言われたことをちょっと思い出しました。

そうしましたら、もう少し先ほどの話を突っ込んで聞きたいところがあるのですが、上坂さん、結構いろいろな形でいろいろな活動をされているかと思うのですが、今回の景観サポーター以外にもやっていらっしゃるまちづくり関連の仲間を含めて、取り組んでいく中で上坂さん自身がお感じになることとか、今の水野先生の話に少し関わるかなという気もするのですが、何かございませんか。

(上坂) 今後何をしていけばいいかということも含めてですかね。今の水野先生の基調講演にもありましたけれども、今の金沢のまちなみがどうつくってこられたのかといった成り立ちみたいなこととか、なぜ今こんなふうになっているのかということ、そのときにどんな考えでこんなふうになったのかということ、次の世代にしっかり伝えていきたいなと思います。私たちは水野先生にこうやって伝えていただいて、それをまた今度私たちが伝えていかなければいけないのかなと思っています。

それから、良い景観、悪い景観というのをしっかり見極められるようにならないといけないと思っています。その意味では、日頃とある学術団体に参加してしまっていて、そういう中でも都市環境デザインということについていろいろと勉強しながら日々やっていますけれども、そういったところで見聞きしたことなども、いろいろな方にまた伝えていけたらなと思っています。

先ほど先生のお話にもあったように、戦後、高度成長の中でなくなっていったものもいろいろあったかと思いますが、それでも他の都市に比べれば金沢はすごくたくさん残っているわけですし、そういった面影、風情というものを大切にして、次に伝えていきたいなと思いますし、そんな中で私はずっと仕事としても関わってきた用水については、また改めて大変興味深く思っています。中心部は比較的いいのですが、ちょっと郊外へ行くとかなり区画整理でなくなっていたり、道路の下に隠れてしまっていたり、かなり変わってきてしまっている部分もたくさんあります。そういったことも少し見直しをして、もう一度用水保全ということもしっかり考えていく必要があるかと思っています。景観サポーターを次期ももしさせていただけるのであれば、そういったところも一生懸命また見ていきたいなと思っています。

活動としては、鞍月用水のせせらぎ通りのところで、毎年、石川高専の学生さんたちと一緒に「せせらぎ Marche」というのをやらせてもらっています。そういったまちなかの空間をみんなで活かして楽しめる取り組みも、引き続きやっていきたいなと思っています。

もう一つだけ、少し気になっているのが景観舗装のことで、今回調査をさせてもらったのですが、金沢はある程度エリアごとにどういう舗装をしていったらいいのかというのをいろいろ議論しながら使われてきていたと思うのです。そういう中に今後新たな拠点がいろいろとつくられていくと思うのですが、そこの周りの舗装がこれまでのコンセプトと違うものになっ

ていくと、ちょっと崩れていってしまわないかという危惧もしていますので、そういうところをしっかりと見極めていくことも大事なのではないかと考えています。

（木谷） 今日のテーマの「未来に繋いでいくために」ということの中で、上坂さんがお感じになること、この先も進めていきたいこと、というようなお話を頂けたかと思います。

では、同じようにして、この先、まさに今日のテーマでもあります「金沢の景観を未来に繋いでいくために」ということを考えたときに、私たちは何をしていきたいと思っているのか。また、何をしていくべきなのかとか、課題でも結構ですので、中西さんの方から少しお話しいただけますか。

（中西） 商店街の仕事をさせていただいている立場としては、先ほどの繰り返しになるのですが、商店街というのは賑わいがあってこそその商店街で、今はなかなかコロナで賑わいを出すというのは難しいのですが、人が歩いて、皆さんが楽しくて、賑わいがあるということが商店街の根幹だと思っていますし、景観というのも、ただまちがきれいだったり、風景がきれいだけではなくて、人がそこで交流しているということがすごく風景として大事だとも思っているのですが、とにかく自分の仕事、私ごととしてできることは、商店街の仕事をきちんとやって、まちなかを盛り上げていくお手伝いを商店主の皆さんとやっていくということだというのが、思っていることです。

市民としてできることはなかなか無いなと思っていましたが、今日景観サポーターの皆さんの話を聞いてすごく勉強になったことも多くて、私たち一人一人がまちの細かな変化に敏感であるということはどういうことかなと思うと、まちを歩いてまちを見る。本当にちょっと変わっていくことを皆さんと共有したり、話し合っていくことが大事なのかなと、今日は勉強させていただいたと思います。答えになっていたか分からないですけど。

（木谷） ありがとうございます。そうしましたら、同じような質問ということで、丸谷先生にお願いします。

（丸谷） ありがとうございます。私からは、3つほどちょっと考えていることがありますのでお話しさせていただきたいと思います。一つは、景観がすごく身近だということをちゃんとみんな意識しながら、まちづくりの観点としては少し活動につなげていったり、これからの金沢をつくっていくという難しい問題に対してもチャレンジしていけるような動きを、どうやったらつくれるかなと思っています。

特にまちづくりで金沢のすごいところは、町会のつながりがすごく強い、地域のコミュニティがしっかりしているというところで、そこで議論がたくさんされているというのはすごく感じています。一方で、景観というのはすごく広がりがある、つながりがある。道路という面的に考えなければいけないとか、川の景観だと自然のつながりで上流から下流までつながっています。そういう自然のつながりを考えると、そういう地域を越えた話し合いをどうやって持って、市民レベルで一人一人が会話をしながら、今後の金沢をどうつくっていくかというような議論をどうやったら生めるか。そこに今後挑戦していかないといけないと思っています。

犀川なども、今はいろいろな地域でそれぞれ川を何かに使いたいとか、いろいろと川との関係を取り戻したいという動きがありますが、それぞれ町会ごとにルールが違ったりして、それぞれで動いています。中西さんとも、学生をもっとまちに巻き込みたいというところでもすごく共通意識を持っているのだけでも、今はそれぞれで動いてしまっているというところもありますので、

一緒にできることは一緒にする。そして、個性を活かすところは活かすというバランスを取ることが、今後の金沢の景観をさらに継承していくのかなと思っています。

あと二つは簡単で、継承していくためには過去を知らないといけないというか、この金沢をつくってきた方々の意思であったり、昔の写真を含めて情報を集めることがすごく大事ななと思っていて、年配の方々にちゃんと話を聞きながら、アーカイブを残していくということがすごく大事ななと思っています。

あとはどんどん学生を巻き込んで、まちの中でいろいろやりたいなというところが3点目です。

(木谷) ありがとうございます。そうしましたら、横江さんにも同じような質問をお聞きしてよろしいですか。

(横江) 金沢の景観の魅力は、近代的な21世紀美術館とかいろいろありますけれども、私の立場から言いますと、歴史的な建物についてはこのまま未来に繋げる、大事に残していくということが、もうそのまま歴史的なものを見たいという方が増えてくる、観光のお客さんが増えるということにつながります。

逆に、長町だけで言いますと、長町はもちろん観光では魅力なまちですけども、基本的に住宅街なのです。お店も少ししかなくて、基本、土堀の中は一般の方が住まわれている住宅なので、そこがとても難しく、静かな生活と片や賑わいのある観光という二面性を持っているまちなので、私も長町に20年ほど住んでいるのですけれども、そこは本当に難しいなということはいつも思っていて、町会の皆さんとも一緒にどうやってこのまままちを残していこうか、住みやすいまちにしたらいいかということは、いつも話はしています。

その一つとして、野村家では音楽堂の方に協力いただいて、ゴールデンウィークのときに「風と緑の楽都音楽祭」でミニコンサートを野村家の前の広場でしていただいているのです。もちろん観光客の方にも喜んでいただいているのですけれども、地元の町内会の人たちも集まって、子どもたちも聴きに來てくれている。先ほど言ったコミュニティや町会の親睦ではないですけども、そういう集まりみたいな形のものの一環でもあるのかなと思っています。

ずっとそこに住まわれている方からは、「昔は近くのところではスクリーンを広げて、外で映画上映をしていたよ」とかという話も聞くので、そこまでできるか分からないのですけれども、地元に住んでいる人も楽しめて、観光客の方も一緒に楽しめる。そういったまちができないかなというのは、住んでいて、野村家も経営していて、本当に思うところです。

(木谷) ありがとうございます。今はコロナでちょっと収まっていますけれども、オーバーツーリズムとか呼ばれる話の中で、これまでの金沢における観光と日常の力関係が大きく変わってしまった。そのバランスをどう取っていくかということ自体、まだまだ明確な解決方法が分からない中で探っていかなければいけない大事な課題なのだろうと思います。

そうしましたら水野先生、同じように未来に繋いでいくためにということで、今の皆さんの話も含めて、先生の方で大事だと思われるようなポイントなどがありましたら、少しお話しいただけますか。

(水野) 未来を探すのは大変だと思いますけれども、一つ今日市長さんがおっしゃっていた「木の文化都市」というテーマがあります。これはなかなか面白そうだと私は思っています。金沢市内の、例えば旧市街地を含めて東側のゾーンでは、建物の物件数でいきますと8割ぐらいが木造です。金沢という都市は、実際は木造の都市なのです。日本の都市は木造をやめようという法律

を決めているわけです。不燃化と先ほどから言っていますけれども、燃えない都市をつくろうというのが都市の大テーマなのです。ですから、片町や香林坊、尾張町などには木造の建物を建ててはいけないと、都市計画で定めているわけです。

そうすると、日本は日本建築という木造建築が一番得意なのに、それが都市にない。その都市はそういうものを木造密集地域といって排除しようというのが今の都市政策の方針で、戦後ずっと続いてきているテーマです。それに反して8割木造のまちに新しい建築を建てていくとしたら、新しい木造でどうだろうか。要するに、今ある伝統の木造と新しい木造をなじませていく。そして両方が共存していく。そういう都市ができないだろうかという提案です。

それは今、地球環境などと言ってSDGsが目指している方向とも一致しますし、金沢市の6割が森林ですか。そういう方向とも一致しますし、さまざまな方向と一致する。だけど、本当にこれをやりたい人がどれだけいるかなどという悩ましい問題が出てきます。だけど、悩みどころとしてはなかなか面白い悩みで、クリエイティブな悩みではないかと私は思っています。だから、未来の方向の一つは、木の文化というものを標榜すると、日本文化を、和の文化を体現した都市・金沢というのが新しく生まれてくる可能性があるのではないかと考えています。

(木谷) ありがとうございます。もうほぼ時間になってきましたので、すみません、会場からも質問を頂こうかと思っていたのですが、アンケート用紙の方に何かお感じのことを含めてお書きいただければと思います。

本当に今日は皆さんありがとうございました。「木の文化都市」という中で、先ほど先生のお話にもありました新しい質のいいバウムクーヘンのまた新しい一層が加えられるといいなと思いますし、みんなで検討していく、議論していくいい材料をいただけたのではと思っています。

それから、今日の景観サポーターの皆様のお話もみんな含めて、今日お集まりの皆様のお話を考えましても、景観というのは本当にさまざまな営み、小さいことから大きなハードに至るまで全てが集まって景観だと思っていますし、本当に一つ一つの小さなことの積み重ね、イコール人のパワーというものが景観をつくるのだなと思います。今日こうやってたくさんの方にお集まりいただいていること自体がすごく心強いことで、金沢は必ずこの景観を未来に繋いでいけるはずだと感じたところでもあります。

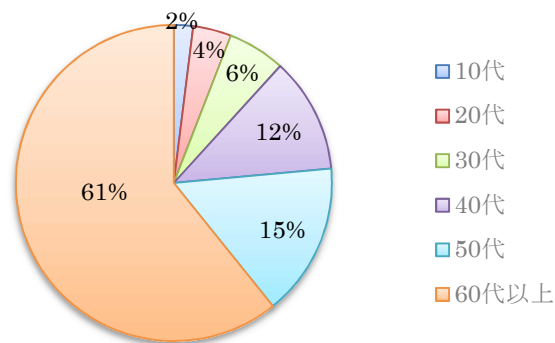
本当に少しでも多くの方に、小さい関心から始まってでも、関心を持ってもらう。今日の話にありましたように、見てもらう、違いに気付いてもらう、そんなことをまずは一つやっていきたいと思っています。そのレベルの高い皆様方には、いろいろなきっかけで思いを深め、いろいろな活動に加わっていただいて、この景観を繋いでいければと思っています。

そうしましたら、お時間となりましたので、この辺でパネルディスカッションを、中途半端な形で申し訳ありませんけれども、締めたいと思います。ありがとうございました。

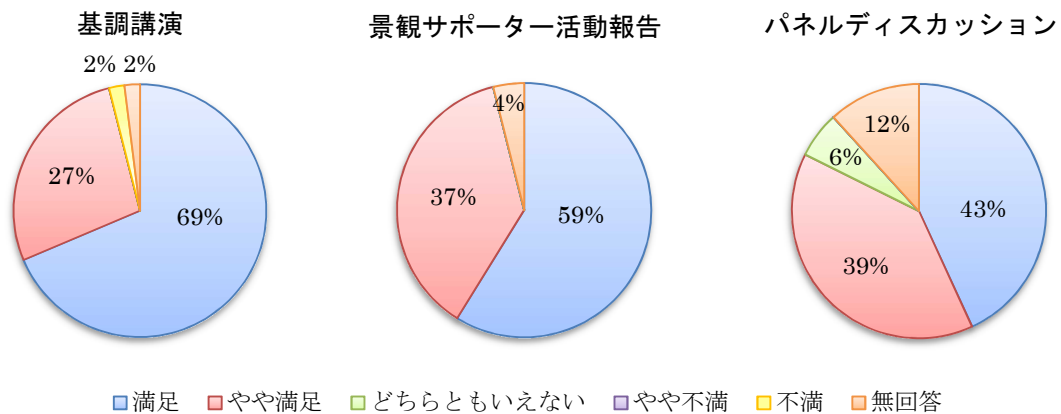


アンケート調査結果

■ 回答者の年齢分布



■ 満足度



■ 自由意見

10代	興味深いお話を聞くことができ、とても満足した。金沢の市民として知らないことを新しく知ることができ、より金沢の景観への意識が高まった。
20代	<ul style="list-style-type: none"> 看板の話おもしろかったです。「看板はまちの顔」という話を認識しました。 いろいろな活動報告を聞いた上で、まちの魅力も感じました。
30代	<ul style="list-style-type: none"> パワポの文字・写真が見えにくいため、パワポをプリントアウトして、配布して頂けたらと思いました（可能であれば）。 景観サポーターの説明が時間の関係もあり、少し、早口になっているのがもったいないなと感じました。 基調講演やパネルディスカッションでは、貴重なお話を聞けてよかったです。 カルテをHPにアップしたり、市民会議以外で見る機会はないか？
30代	<ul style="list-style-type: none"> 景観サポーターの活動はどれも記録的価値の感じられる素晴らしいものばかりでした。自発的にこのような活動をされ、発表の場がある。一般の方も聞くことが出来るというのはとても良いイベントだと思いました。 パネルディスカッションのゲストが豪華な方々でしたので、もう少し時間をとっても良かったかなと思いました。

30 代	せっかくのサポーターの方々の報告書をゆっくり読みたいと思いました。どこかで公開していただけると嬉しいです。
40 代	<ul style="list-style-type: none"> ・各パートが短くわかりやすい構成で理解しやすかったです。 ・パネラーの多様性が良く、短い時間ではあるが広がりがあったって充実した時間でした。
40 代	<ul style="list-style-type: none"> ・基調講演で改めて、金沢の良さが理解出来ました。 ・景観サポーターの存在を今まで知りませんでした。ユニークな活動をしていますね。頑張ってください。 ・金沢市民だけではなく、外の人達の意見も取り入れる事も大事なのではないのでしょうか？
40 代	会議はコロナ渦の中で限られた人数での開催となったが、内容が充実しており大いに参考になった。景観サポーターによって市・行政が支えられていることを改めて認識した。総じて満足のいく会議であり、参加出来て感謝している。
50 代	勉強になりました。次回も参加したいと思います。
50 代	<ul style="list-style-type: none"> ・「バウムクーヘン」を何度か耳にしていたが、基調講演を聞くと「ロールケーキ」のことを指していて、その方が分かりやすかったです。 ・定点観測、舗装の状況については継続的に行って欲しい。 ・「坂」の発表では、紹介でなく評価を聞きたかった。
50 代	パネリストが多彩で大変面白い内容だった。
50 代	<ul style="list-style-type: none"> ・サポーターの作られた報告やマップをじっくり見たいと思いました。どこか市の web からダウンロードできないのでしょうか？ ・“木”のまちはぜひとも金沢市のアイデンティティーの1つとして実現すべきだと思います。同時に“水”のまちであることも含めて未来のまちの基礎にすべきかと思いました。“坂”もかな？
50 代	金沢市景観サポーターの存在は全く知らなかった。一般に知られていないが、気になる場所を見つけて欲しいと思います。色々な視点で、新しい発見をしているのは良かった。
60 代以上	美しい金沢に住めてつくづく幸せだと思いました。これも皆様、市民の力による街づくりと改めて感謝します。
60 代以上	旧金沢市街の商店市日（衣類、雑貨、食品等）での人の流れよく利用された道や通りで現在も残っている通りを紹介して欲しい。
60 代以上	本市民会議には初めて参加しました。サポーターの方々の活動状況を少し理解できましたが、自らサポーターに応募までの勇気がありません。しかし、建築の設計業務（企業の建築家）に携わってきた立場ですので、サポーターの件、再考してみたいと思っています。
60 代以上	次代の人に金沢らしい景観を伝えていくことが大切だと感じました。
60 代以上	江戸よりも江戸的なまち金沢を大切に。
60 代以上	次代に学校等で金沢の景観のあり方を伝えていって欲しいと切に願います。よろしく。
60 代以上	今後もこのような会議を定期的に継続して開催して欲しい。
60 代以上	旧市街地中心に景観の対象が偏っているのが問題であると思う。金沢市は広い。新興開発地、住宅地、北陸高速のインターからの入口等、もっと郊外を対象に入れないと“ダメ”
60 代以上	景観条例と建築基準法が重なる場合、どちらを優先するのかという議論をして欲しい。金沢の未来を歴史・伝統を守りながら新しい金沢 vision を明確に出して欲しい。

60 代以上	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少しホテルが飛び交うような場所が増えれば良いと思う。 ・京都等の古い街並みを見ていると古い看板が目につくと何故かタイムスリップした気になるので、金沢もそれらを残すのは有意義な事です。 ・富山県高岡市の街並みを散歩して見ると、自分が小・中学校時代にあった様な風景や商店の街並みが並んでいて、とても懐かしい思いでした。
60 代以上	金沢の広域都市圏、石川県、北陸圏での連携と協働を進めて、住み良い広域圏として発展を図っていききたい。
60 代以上	内容が盛り沢山過ぎて時間配分が少し窮屈に感じた。あと 30 分時間を取っても良かったように感じました。
60 代以上	<p>前略 僭越ながら下記の 2 件について提言したい（観光学の視点で）</p> <p>（１）広坂交差点付近より金沢城址公園を眺望した時、あまりにも樹木が繁茂しているので見苦しい。理想を言えば売りの石垣をもっと見せるとか、欲を言えば天守閣に代わる三階櫓が見えれば、金沢城の人気度はもっとアップするかも・・・？</p> <p>（２）武蔵ヶ辻交差点にある村野さん設計の北國銀行支店の外観意匠に一工夫も二工夫も必要であろう。3 階の窓に赤、青、黄の建築 3 原色のカーテンをつるすだけでお金のかからないイメージチェンジが可能では・・・？</p>
60 代以上	景観サポーターの報告、すばらしかったです。
60 代以上	オーバーツーリズムと住民生活。住民が本物を見る目を持ち、良くないものを「おかしい」と気づく感じる感性を育てたい。
60 代以上	街並みの変化を認識出来ました。坂は、説明と絵が共に分かりやすく思いました。
60 代以上	景観舗装について、現地をたくさん調査してよくまとめてあり、興味深かった。
60 代以上	街並み景観を考える時、地元の基本となる町内会との連携が大切だと思います。
60 代以上	<ul style="list-style-type: none"> ・景観には木・草・電柱（木）、手すり等の色が関係する。これらも統一する？など（白い交差点の色を地面と）。 ・木を育てて欲しいです。3 年前の雪で全部×になってしまった。冬・夏は緑、秋は紅葉、春は桜。
60 代以上	とても役に立ちました。
60 代以上	サポーターの取り組みによって「看板は街の顔」が作られていたが、行政の支援により、歴史の街を歩いてみるパンフ等を作成すべきである。→市民に発信を！
60 代以上	景観サポーターの熱心な活動ぶりに驚きました。こうした市民サポーターのみなさんの活動が金沢の景観の保存と再生を支えているのだと思いました。
60 代以上	サポーターの皆さんの（活動が）興味深かった。地道な活動だが素晴らしい。もっと発信する機会が増えれば良いと思う（私が知らないだけかもしれないが）
60 代以上	水野先生のお話、景観サポーターの報告、パネリストのお話をお聞き出来て、金沢の歴史について大変興味を持ちました。パネルディスカッションの後に質問・要望時間があるものと準備していましたが、それもなく終了してしまいました。

第7回 金沢の景観を考える市民会議 ～みんなで描く景観のミライ～

令和3年2月20日

1

登録人数

		サポーター	みまもりたい
1期	平成20年度～平成22年度	9人	—
2期	平成23年度、平成24年度	25人	—
3期	平成25年度、平成26年度	11人	14人
4期	平成27年度、平成28年度	11人	16人
5期	平成29年度、平成30年度	9人	21人
6期	令和元年度、令和2年度	22人	—

5

各種出前講座など



9

第7回 金沢の景観を考える市民会議

金沢市景観サポーター 活動報告

2

毎月の連絡会議の様子



6

調査結果の報告

- ・看板は街の顔～金沢の街を造った看板たち～
- ・平成から令和へ～比べてみました～
- ・金沢市まちなか区域の景観塗装
- ・茶の湯が育む文化的景観
- ・坂の下からと上からの眺望景観

10

「景観サポーター」

金沢市長から任命
金沢の景観に関する取材や調査を行い
良好な景観形成のために活動する
市民ボランティア



調査XOZ



景観学習補助

3

景観勉強会



7

景観資源等の調査



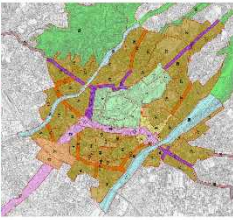







8












景観サポーターの仕組み





金沢市景観総合計画より

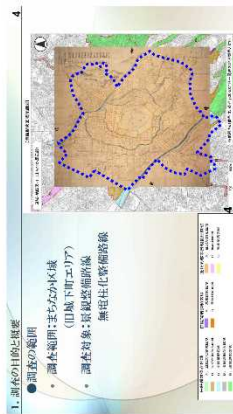
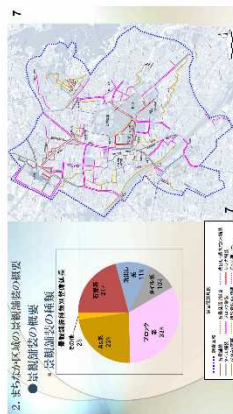
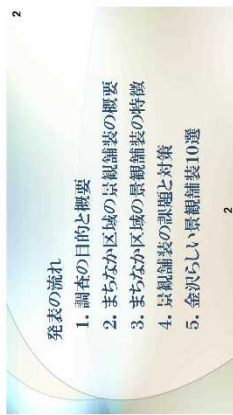
4

<p>1</p> <h2>平成から令和へ ～比べてみました～</h2> <p>2班報告書</p> <p>2021年2月20日 崎村 櫻井 寺澤 豊島 西山 山崎</p> <p>5</p>	<p>2</p> <h3>景観サポーターの活動</h3> <h4>景観サポーター第1期の活動内容</h4> <p>2009年～2011年(平成21,22年度)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 古写真等の収集・整理 ② 定点観測写真撮影・台帳作成 ③ 景観勉強会 ④ 金沢市広報「いいね金沢」出演 ⑤ 定点観測写真分析評価カルテの作成 ⑥ 啓発用DVDの作成 	<p>3</p> <h3>景観サポーターの活動</h3> <h4>景観サポーター第1期の活動内容</h4> <p>2009年～2011年(平成21,22年度)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 土佐真実等の収集・整理 ② 定点観測写真撮影・台帳作成 ③ 景観勉強会 ④ 金沢市広報「いいね金沢」出演 ⑤ 定点観測写真分析評価カルテの作成 ⑥ 啓発用DVDの作成 	<p>4</p> <h3>定点観測 どこを撮影したか</h3> <p>定点観測写真撮影は 景観法を活用する指定区域 景観計画区域(市全域)において 特に、景観法を活用し 重点的に取り組む区域として 「伝統景観保存区域」 「伝統景観調和区域」 「近代的都市景観調和区域」を指定 この区域の交差点を中心に4方向を撮影 定点数363か所・写真点数1,172点</p>
<p>5</p> <h3>定点観測 どこを撮影したか</h3>  <p>5</p>	<p>6</p> <h3>私たちは何をしたか</h3> <h4>同じ場所を撮影し、比較した 定点数363か所</h4>	<p>7</p> <h3>前回との比較(写真台帳)</h3>  <p>7</p>	<p>8</p> <h3>前回との比較(評価カルテ)</h3>  <p>8</p>
<p>9</p> <h3>撮影・比較して</h3> <p>変わらない景観 変わった景観 気になった景観</p>	<p>10</p> <h3>撮影・比較して</h3> <p>変わらない景観 伝統景観保存区域・伝統内街並み 彦三町・尾張町地区 (こまちなみ保存地区) KS12-01</p>	<p>11</p> <h3>撮影・比較して</h3> <p>変わらない景観</p>  <p>11</p>	<p>12</p> <h3>撮影・比較して</h3> <p>変わらない景観</p>  <p>12</p>
<p>13</p> <h3>撮影・比較して</h3> <p>変わらない景観</p>  <p>13</p>	<p>14</p> <h3>撮影・比較して</h3> <p>変わらない景観 伝統景観調和区域・景観調和 西大通り地区 (白銀交差点) KS12-01</p>	<p>15</p> <h3>撮影・比較して</h3> <p>変わらない景観</p>  <p>15</p>	<p>16</p> <h3>撮影・比較して</h3> <p>変わらない景観</p>  <p>16</p>

<p>2019年(令和元年)</p> <p>変わらない景観</p>  <p>17</p>	<p>18</p> <p>コインパーキングが増加</p>  <p>18</p>	<p>19</p> <p>撮影・比較して</p> <p>変わった景観</p> <p>近代的都市景観新田区域 金沢駅周辺</p> <p>駅東地区 (兼六園口)</p> <p>KS2-04</p> <p>19</p>	<p>2009年(平成21年)</p> <p>変わった景観</p>  <p>20</p>
<p>2019年(令和元年)</p> <p>変わった景観</p>  <p>21</p>	<p>22</p> <p>変わった景観</p>  <p>22</p>	<p>2020年(令和2年)</p> <p>変わった景観</p>  <p>23</p>	<p>24</p> <p>変わった景観</p> <p>駅前から本町方向</p>  <p>24</p> <p>今後は 旧都ホテル跡地の 活用が目される</p>
<p>25</p> <p>撮影・比較して</p> <p>大幅に変わった景観</p> <p>伝線環境保存区域 伝線街道並み</p> <p>長土堀2・3丁目周辺地区 (長土堀3丁目北陸新幹線高架沿い)</p> <p>KS0-03</p> <p>25</p>	<p>26</p> <p>大幅に変った景観</p>  <p>26</p>	<p>27</p> <p>大幅に変った景観</p>  <p>27</p>	<p>28</p> <p>撮影・比較して</p> <p>気になった景観</p> <p>防災か景観か</p> <p>伝線環境保存区域 伝線街道並み</p> <p>小将町・東兼六町地区 (八坂)</p> <p>KS22-02</p> <p>28</p>
<p>2009年(平成21年)</p> <p>防災か景観か</p>  <p>29</p>	<p>30</p> <p>防災か景観か</p>  <p>30</p>	<p>2019年(令和元年)</p> <p>防災か景観か</p>  <p>31</p>	<p>32</p> <p>撮影・比較して</p> <p>気になった景観</p> <p>すっきり 無電柱化</p> <p>伝線環境保存区域 伝線街道並み</p> <p>野町・弥生地区 (野町広小路・蛤坂交差点)</p> <p>KS6-05</p> <p>32</p>

<p>2009年(平成21年)</p> <p>すっきり 無電柱化</p> <p>33</p>  <p>2009.09.04</p>	<p>2019年(令和元年)</p> <p>すっきり 無電柱化</p> <p>34</p> 	<p>すっきり 無電柱化</p> <p>35</p>  <p>小立野4丁目</p> <p>大手町交差点</p>	<p>2009年(平成21年)</p> <p>撤去、アーケード</p> <p>36</p>  <p>野町広小路では アークードがなくなった</p>
<p>2019年(令和元年)</p> <p>撤去、アーケード</p> <p>37</p>  <p>野町広小路では アークードがなくなった</p>	<p>撮影・比較して</p> <p>38</p> <p>気になった景観 すっきり 広告</p> <p>近代的都市景観創出区域 都心部 香林坊地区 KS06-04</p> <p>38</p>	<p>2009年(平成21年)</p> <p>すっきり 広告</p> <p>39</p> 	<p>2019年(令和元年)</p> <p>すっきり 広告</p> <p>40</p> 
<p>2019年(令和元年)</p> <p>すっきり 広告</p> <p>41</p> 	<p>私たちは何をしたか</p> <p>42</p> <p>新たに選定する (指定区域内・外)</p>	<p>新たに選定する</p> <p>43</p> <p>区域内外で 今後変わると思われる場所 あるいは 保全状況を確認したい場所 を定点として追加選定し 観測していきたい</p>	<p>新たに選定する</p> <p>44</p> <p>伝統的景観保存区域 旧街道街並み 旧北国街道春日町・大樋町地区 (山の上町・大樋町) KS61</p>
<p>新たに選定する</p> <p>45</p>  <p>旧北国街道 山の上町・大樋町</p> <p>時代の 移り変わりに伴い お店の佇まいは 変わるのでしょいか</p>	<p>新たに選定する</p> <p>46</p> <p>伝統的景観保存区域 伝統的町並み 大野町地区 (大野町4丁目通り) KS51</p>	<p>新たに選定する</p> <p>47</p>  <p>大野町4丁目通り</p> <p>風格ある この地方特有の 街並み</p>	<p>新たに選定する</p> <p>48</p> <p>重要伝統的景観形成区域 外環状道路 海側幹線 (直江町)</p>

<p>新たに選定する</p> <p>海側幹線（直江町）</p>   <p>海側幹線の全通で 街がどう発展するか</p> <p>49</p>	<p>調査して</p> <p>今後注目していきたい場所</p> <p>道路拡張・無電柱化</p> <p>広小路から野町</p> <p>無電柱化</p> <p>尾張町・下新町 観音町</p> <p>50</p>	<p>今後注目していきたい場所</p>   <p>下新町</p> <p>51</p>	<p>調査して</p> <p>今後注目していきたい場所</p> <p>建物移転・建て替え関連</p> <p>日本銀行金沢支店 石川県立図書館 金沢歌劇座 金沢市立中央小学校 跡地</p> <p>都ホテル跡地</p> <p>〒金沢工場跡地（西金沢駅西口）</p> <p>52</p>
<p>今後注目していきたい場所</p>   <p>日本銀行金沢支店</p> <p>崎浦・旧工学部前</p> <p>53</p>	<p>今後注目していきたい場所</p>   <p>金沢歌劇座</p> <p>旧都ホテル跡地</p> <p>54</p>	<p>今後注目していきたい場所</p> <p>景観サポーターの役割</p> <p>生活者としての市民目線と 愛ある取材活動等を通じて 魅力ある金沢の景観向上のため</p> <p>今後も 景観サポーターとしての役割を果たし お手伝いをしていきたい</p> <p>55</p>	<p>56</p> <p>ご清聴ありがとうございました</p> <p>2班</p> <p>崎村 穂井 寺澤 豊島 西山 山崎</p>



<div data-bbox="215 1608 448 2018"> <div> <div>32</div> <div> <div>5. 金沢らしい住環境研究（寺町通りの交差点）</div> <div> <div>寺町通りがデザインされた住環境</div> <div>5道</div> <div>クロスロード金沢</div> <div>33</div> </div> </div> </div> </div>		<div data-bbox="215 658 448 1068"> <div> <div>34</div> <div> <div>5. 金沢らしい住環境研究（寺町通りの交差点）</div> <div> <div>寺町通りがデザインされた住環境</div> <div>5道</div> <div>クロスロード金沢</div> <div>33</div> </div> </div> </div> </div>	
		<div data-bbox="215 658 448 1068"> <div> <div>35</div> <div> <div>5. 金沢らしい住環境研究（寺町通りの交差点）</div> <div> <div>寺町通りがデザインされた住環境</div> <div>5道</div> <div>クロスロード金沢</div> <div>33</div> </div> </div> </div> </div>	



茶道王国とも呼ばれる
茶のまち 金 沢

「金沢の文化の原点」とも言える「茶の湯」

③加賀藩は、初代府田利休が千利休や織田有楽斎(徳川の弟)から、
指図を受けた越前茶人であり、その茶室建築が2代利休以降に
引き継がれ、文化圏に力を入れた。

③3代利休は提出した文化本名で、小堀通州から学び、仙臺茶室
(唐千鶴の設計)や金沢七之助(宗和の良男)を『茶室茶具集行』
として引き、茶の湯を奨励した。

③藩士から町民まで広く浸透し、茶室も多く造られ、茶湯は、菓子
や料理、美術、工芸の分野も発展していった。



茶室の多さは全国屈指

・金沢市内には、200以上の茶室があると言われる

・土曜が特徴の雪国の茶室や、
藩主ゆかり、千仙里や家元、
旧家ゆかりの歴史的由緒ある
茶室が多く現存し、金沢ほど
茶室が整備されている都市は、
全国的にも少ないと言われている
★市中の茶室は、ほとんどが個人所有や非公開です

市や県が運営する茶室 16か所

を文化財事業や茶会に使用出来き、茶室にも備えられた施設

☆そのほとんどが、歴史的由緒ある茶室

☆市や県が造った茶室

「閑静庵」昭和57年 金沢四百年記念事業
文化ホール内に、学会やイベントの会場
に、至茶でおもてしの茶室
外観まで出たりできる、立派席も設けた

「対馬荘」昭和43年 旧国立美術館の別館
建築家谷口吉郎氏設計、座敷と立派な相
合せた茶席。席名は旧家後援家の雅号



金沢ならではの「大寄せ大茶会」

金沢では、大寄せ大茶会が『市や県が運営する茶室』
で開催されていますが、全国的にも珍しく
他の都市では、同じ日に複数の茶席を設ける催しは、
『寺院建築』です。

金沢は、同じ日に、移ける距離に、複数の大寄せ茶会
が開催できる『茶室建築』を抱えており
そのような街は、京都と金沢くらいといわれる。



金沢城・兼六園大茶会
地元作家の新作茶道具

★全国的にも珍しい

・茶席の茶道具は、工芸作家への委嘱作と一般公募出品
の入選作から、各社が組み合わる
・文化勲章受賞者や芸術会員、人間国宝ら重鎮と共に、
新進気鋭の作家の作品で、もてなす茶席。
・美術工芸王国の粋と、茶の湯文化の厚みを伝える。

★市内の「三大茶会」のひとつ
二茶席 市民茶会(京都市)、松江城 大茶会(松江市)



茶席にかかせない菓子文化

金沢は和菓子屋が多く、消費金額も全国トップ。二つの要因

1. 富貴王臣の土物地、仏事に付いた和菓子が多く、朝日や茶餅や、
風呂敷に並び、但良にかかせないものになった富貴の菓子「上菓子」

2. 茶の湯が盛んなこと共に、茶席の趣向工夫のなかで菓子職人が
研鑽を積み、芸術的な域にまで達した茶席の菓子「上菓子」



抹茶の老舗店

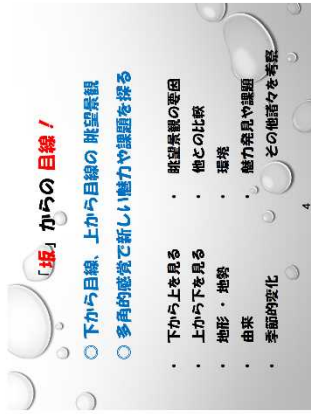
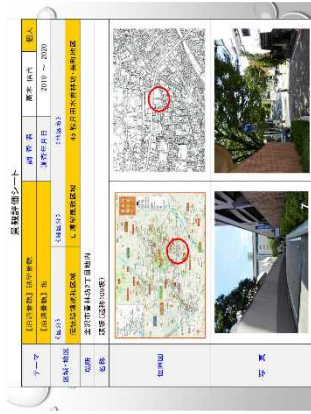
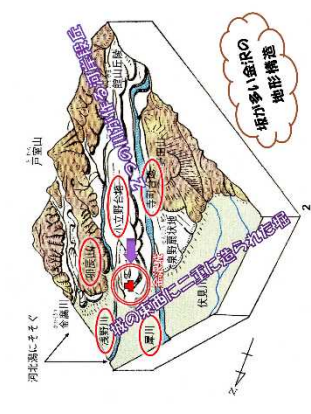
東山 米沢茶店
創業130年余り 明治8年
抹茶、煎茶、ほうじ茶、茶餅
抹茶は、お茶に代わる飲料

野田 野田茶店
創業160年余り (1859年)
茶の湯、煎茶、ほうじ茶、茶餅
茶の湯、煎茶、ほうじ茶、茶餅

安江町 京はやし
創業160年余り (1859年)
茶の湯、煎茶、ほうじ茶、茶餅
茶の湯、煎茶、ほうじ茶、茶餅

下野町 上林茶店
700年前、平家物語「平家物語」
の時代には、お茶の湯で茶を飲む
習慣は、お茶の湯で茶を飲む
習慣は、お茶の湯で茶を飲む

★市内には、茶室が多くあり、
茶室の多い街が金沢





金沢市

景観サポーター

金沢市景観サポーターの活動の様子を写真で紹介しています。左から右へ、上から下へと順に見ていただくと、サポーターの活動の多様性が分かります。

金沢市景観サポーターの取組

1. 金沢市景観サポーターの取組

2. 金沢市景観サポーターの取組

3. 金沢市景観サポーターの取組

4. 金沢市景観サポーターの取組

5. 金沢市景観サポーターの取組

6. 金沢市景観サポーターの取組

看板は街の顔

金沢市景観サポーターの活動の様子を写真で紹介しています。左から右へ、上から下へと順に見ていただくと、サポーターの活動の多様性が分かります。

平成から令和へ

～金沢の景観～

2009年～2011年(平成21～23年度)で定点観測撮影した場所を再度撮影し、比較しました(定点数383か所)

変わらな景観
金沢市景観サポーターの活動の様子を写真で紹介しています。左から右へ、上から下へと順に見ていただくと、サポーターの活動の多様性が分かります。

変わった景観
金沢市景観サポーターの活動の様子を写真で紹介しています。左から右へ、上から下へと順に見ていただくと、サポーターの活動の多様性が分かります。

武蔵ヶ辻地区
金沢市景観サポーターの活動の様子を写真で紹介しています。左から右へ、上から下へと順に見ていただくと、サポーターの活動の多様性が分かります。

気になった景観
金沢市景観サポーターの活動の様子を写真で紹介しています。左から右へ、上から下へと順に見ていただくと、サポーターの活動の多様性が分かります。

選定した場所
金沢市景観サポーターの活動の様子を写真で紹介しています。左から右へ、上から下へと順に見ていただくと、サポーターの活動の多様性が分かります。

眺望景観

眺望景観の調査結果を写真で紹介しています。左から右へ、上から下へと順に見ていただくと、眺望景観の調査結果の多様性が分かります。

金沢市景観サポーターの取組

金沢市景観サポーターの活動の様子を写真で紹介しています。左から右へ、上から下へと順に見ていただくと、サポーターの活動の多様性が分かります。

茶都・金沢

まちなかの茶室と

茶の湯が育む文化的景観

金沢市景観サポーターの活動の様子を写真で紹介しています。左から右へ、上から下へと順に見ていただくと、サポーターの活動の多様性が分かります。

眺望景観

眺望景観の調査結果を写真で紹介しています。左から右へ、上から下へと順に見ていただくと、眺望景観の調査結果の多様性が分かります。

本ページの資料は、

金沢市公式HPでもご覧いただけます。

https://www4.city.kanazawa.lg.jp/29020/keikan/seido/4_04.html

第6期 金沢市景観サポーター一名簿

(班別・五十音順)

班	氏 名
1 班	石川 毅、上田 律子、中田 廉子
2 班	崎村 美智子、櫻井 美環、寺澤 宏、豊島 祐樹、 西山 純夫、山崎 裕司
3 班	河合 外志郎、須崎 秀人、竹下 知子、馬場 要
4 班	上坂 達朗、川端 すぎな、吉岡 佳寿芽、吉田 芳弘
5 班	高木 信吉、福岡 澄子
6 班	稲垣 哲一、津田 外喜弘、山原 紀三子
7 班	高木 信吉

第7回 金沢の景観を考える市民会議

編集・発行／金沢市都市整備局景観政策課
〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号

写真提供／金沢市景観サポーター

